

## イギリスの地方行政

——コルチェスター・バラ・カウンシルの行政(その1)

大塚 祚保

### 第1章 コルチェスターをめぐる現況

#### 1. コルチェスター・バラ・カウンシルの概要

コルチェスター・バラ・カウンシルをめぐる都市的状况を概略しておこう。

コルチェスターは、ロンドンから北東に50キロ余にあり、ロンドン(地下鉄リバプール・ストリート駅)から英国鉄道で約50分の距離にある。イプスウィッチ(Ipswich)、クラクトン(Clacton)方面へ行くインター・シティ線は、1時間に4～5本の割合で出ており、ロンドンの生活圏域になりつつある。サラリーマンの中には、ロンドンへの通勤者も多く、コルチェスターは、大都市ロンドンの通勤圏域にあるといえる。

道路交通体系は、ロンドンから放射状にのびるA12幹線をはじめA120などがコルチェスター内を通過しており、車による利便性も高い。さらに、コルチェスターを中核として近郊の都市へとA137、A133、A604などの道路が延長している。コルチェスターは、この地域の道路交通ネットワークの中核的地域でもある。

コルチェスターの市内には、コールン川(Colne River)が中央に流れ、ウィベンホウ(Wivenhoe)を経てウエスト・マーシイ(West Mersea)の海岸へと達している。コルチェスター・ノース駅(North Station)からみると、右手

の小高い丘がコルチェスターの市街地であり、Town HallのタワーやJumboの高い塔、教会の上がったチャペル塔がよくみえる。その周辺には、住宅や事業所、さらには多くの緑地が広がっている。

コルチェスターの人口は、14万9千人(94年)で、現在、ほぼ15万人である。エセックス・カウンティにある14のバラ・ディストリクトのうち、カウンティのあるチェルムスフォードに次いで第4位である(表1-1)。

その比率は、エセックス・カウンティ(Essex County)の中で約9.5%である。サウスエンド(Southend-on-Sea)10.8%、バシルドン(Basilton)10.3%、チェルムスフォード(Chelmsford)9.9%で、これらが比較的にな大きな周辺の都市である。イギリスの平均的な都市は、人口5万人余が多く、人口14～15万台の都市は、日本の40～50万都市に匹敵すると考えられる。

コルチェスターの人口状況は、表1-2、図1-1の通りである。1981年代の138千人から、年々1～2千人余の割合で増加する傾向を示している。とくに、1984年以降、急激なる上昇傾向を示し、さらに、92年以降の上昇で、今日の15万人余に達している。

なお、人口動向の詳細は、次項にゆずる。

コルチェスター・バラ・カウンシルは、中核の市街地のTown Wards地区と周辺のParish

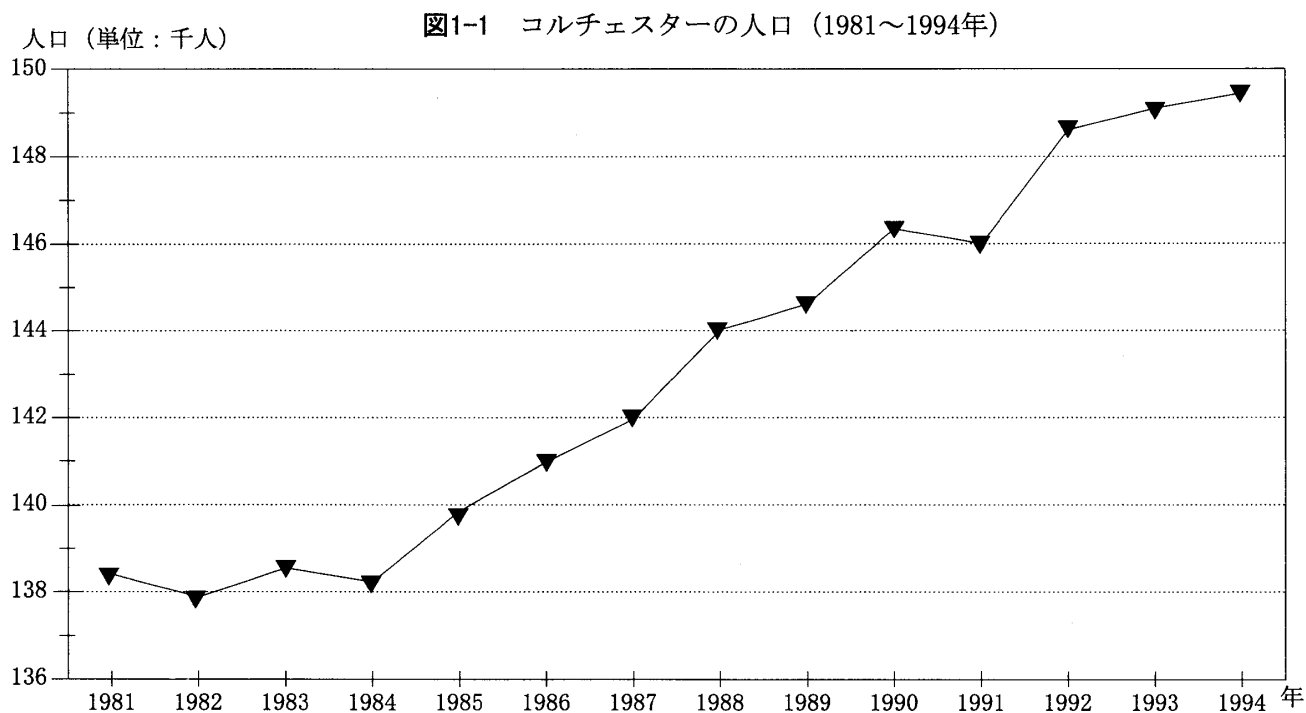
※ 私は、1996年4月から97年3月まで、イギリスのエセックス大学に留学した。この間、イギリスの地方行政を研究するために、Essex County Council, Colchester Borough Council, Wivenhoe Town Councilの3つのレベルの地方団体を調査した。この論文は、そうした調査結果を中核にとりまとめたものである。

表1-1 バラ・ディストリクトの人口

ディストリクト	1991年		1994年	
	人口	%	人口	%
Basildon	162.7	10.5	162.1	10.3
Braintree	119.8	7.7	123.6	7.9
Brentwood	70.8	4.6	71.8	4.6
Castle Point	87.1	5.6	85.9	5.5
Chelmsford	154.1	10.0	155.8	9.9
Colchester	145.9	9.4	149.6	9.5
Epping Forest	117.0	7.6	118.9	7.6
Harlow	75.6	4.9	73.1	4.7
Maldon	52.9	3.4	53.5	3.4
Rochford	75.8	4.9	75.8	4.8
Southend-on-Sea	162.5	10.5	169.9	10.8
Tendring	127.1	8.2	130.9	8.3
Thurrock	129.6	8.4	131.4	8.4
Uttlesford	66.1	4.3	67.5	4.3
Essex	1546.9	100.0	1569.9	100.0
South East	17636.8	—	17870.2	—
England & Wales	51099.5	—	51620.5	—

(注) 1. 人口数は千単位である

2. Colchester Borough Council 『Colchester Counts』 1996.3, p.14より作成



(注) Colchester Borough Council 『Colchester Counts』 96.3 p.8

表1-2 コルチェスターの人口

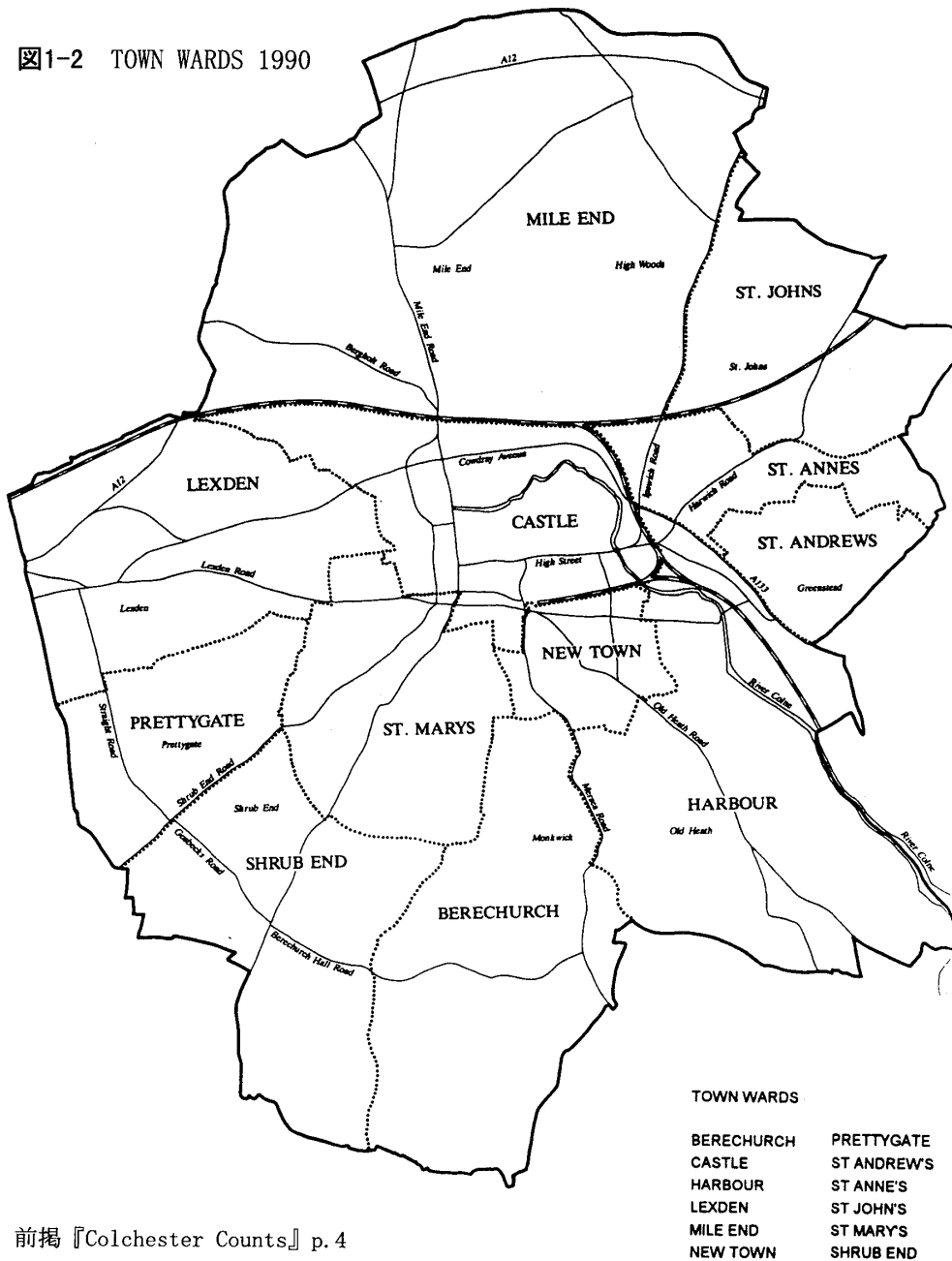
年	人 口
1981	138,300人
1991	145,900
1993	149,100
1994	149,600
1996	151,100
2001(計画)	156,000

(注) 『Colchester Counts』 95～96年より作成

の地域からなっている(図1-2, 1-3)。

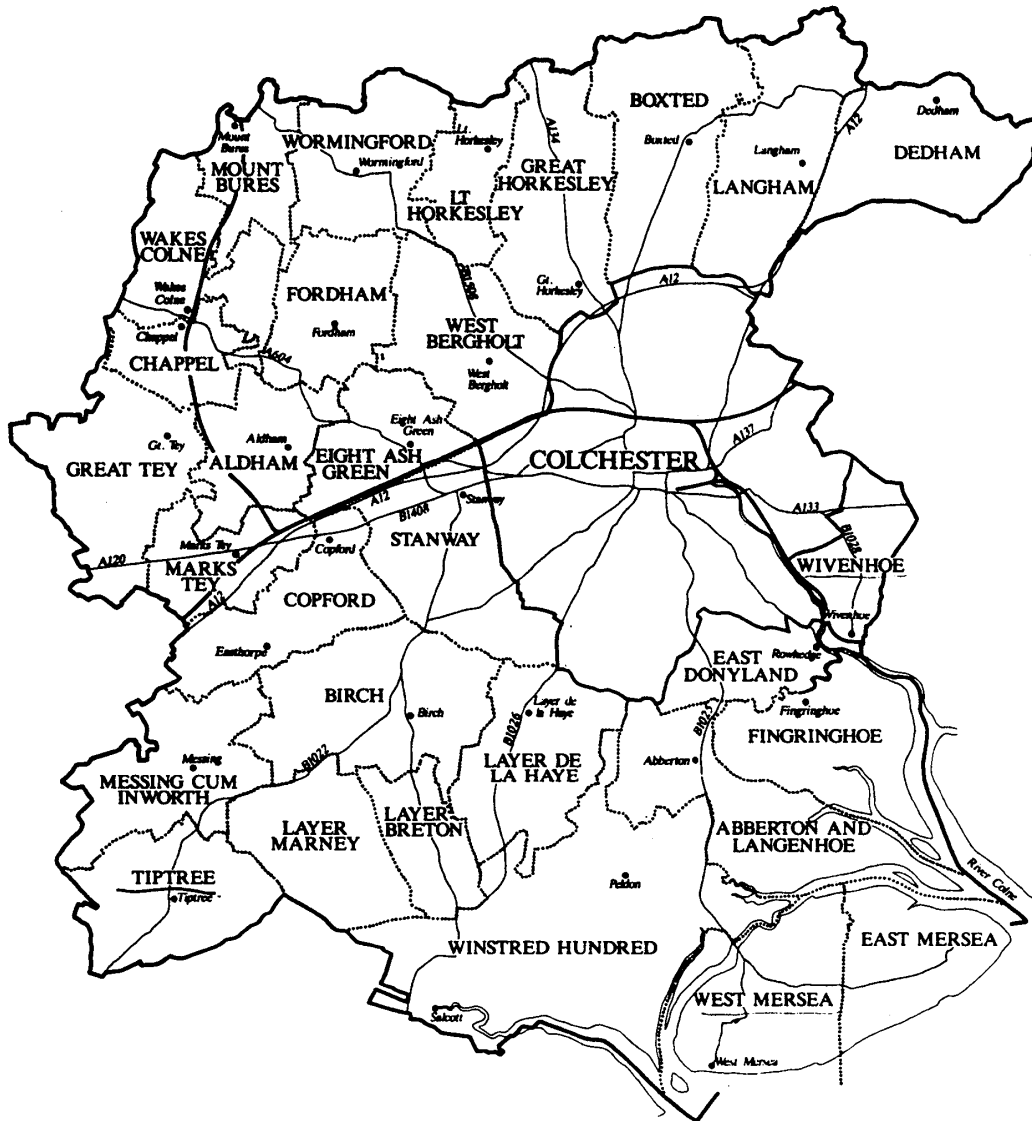
タウン地区は、中心市街地のタウンセンターをもつカースル(Castle)をはじめ、ニュータウン(New Town)、レグデン(Lexden)、ST・メアリィ(ST Mary's)、ハーバー(Harbour)、ミルエンド(Mile End)などの郊外へと合計12地区からなっている。これらの Wards は、議員を選出する選挙区のための区分であり、一部の地域では、パリッシュ・カウンシルなどの行政区分とは異なるところもある。

図1-2 TOWN WARDS 1990



(注) 前掲『Colchester Counts』 p. 4

図1-3 コルチェスターのパリッシュ



- |                        |                  |                     |
|------------------------|------------------|---------------------|
| ABBERTON AND LANGENHOE | FINGRINGHOE      | MESSING CUM INWORTH |
| ALDHAM                 | FORDHAM          | MOUNT BURES         |
| BIRCH                  | GREAT HORKESLEY  | STANWAY             |
| BOXTED                 | GREAT TEY        | TIPTREE             |
| CHAPPEL                | LANGHAM          | WAKES COLNE         |
| COPFORD WITH EASTHORPE | LAYER BRETON     | WEST BERGHOLT       |
| DEDHAM                 | LAYER DE LA HAYE | WEST MERSEA         |
| EAST DONYLAND          | LAYER MARNEY     | WINSTRED HUNDRED    |
| EAST MERSEA            | LITTLE HORKESLEY | WIVENHOE            |
| EIGHT ASH GREEN        | MARKS TEY        | WORMINGFORD         |

(注) 前掲『Colchester Counts』 p. 6

その周辺には、図1-3にみるように、30のパリッシュ・カウンシルが点在している（96年）。コルチェスター・バラ・カウンシルは、こうした12地区と30のパリッシュ・カウンシル(Parish Council)を包括した総合的な地域をもつ自治体である。

## 2. 人口の動向

### (1) 人口の変化(表1-3)

コルチェスターの人口動向をみておきたい。エセックス・カウンティの中には、6のバラ・カウンシル(Borough Council)と8のディストリクト・カウンシル(District Council)があり、コルチェスター・バラ・カウンシルは、その一つである。

コルチェスター・バラ・カウンシルの人口は、149,600人であり、これは、エセックス・カウンティの1,569,900人に対して9.5%となる。サウスエンド169,900人、バシルドン162,100人、チ

ェルムスフォード155,800人に次ぐ第4位の大きさである。

コルチェスターの人口は、1981年と比べ、11,300人増加し、8.2%増であり、91年と比べると、3,700人増え、2.5%増である。近年では、毎年約500人のペースで増加しており、当分の間、この位の数値で成長していくものと考えられる。人口増加の要因は、自然増(2.5%)と社会増(1.8%)の双方であり、出生率も比較的高く、社会動態も一定に維持しているという双方のバランスをもった都市といえる。

他市の状況を見てみると、サウスエンド(Southend-on-Sea)は、最も人口の多い169,900人であり、伸び率も4.6%と高い成長率を示している。その増加要因は、7.8%の社会増であり、自然増はマイナスの傾向にある。バシルドン(Basildon)は、第2位の人口をもつ都市であるが、その人口は下降傾向を示している。その主因は、社会増-3.3%に示されているように、人

表1-3 エセックス・カウンティ内の人口

地 域	人 口(千人)		91年と94年の比較		自然増 (%)	社会増 (%)
	1991年	1994年	人 口	増減(%)		
Basildon	162.7	162.1	-0.6	-0.3	2.7	-3.3
Braintree	119.8	123.6	3.8	3.2	1.2	2.6
Brentwood	70.8	71.8	1.0	1.4	-0.1	1.0
Castle Point	87.1	85.9	-1.2	-1.4	0.7	-2.0
Chelmsford	154.1	155.8	1.7	1.1	2.5	0.9
Colchester	145.9	149.6	3.7	2.5	2.0	1.8
Epping Forest	117.0	118.9	1.9	1.6	0.6	1.3
Harlow	75.6	73.1	-2.5	-3.4	1.3	-3.8
Maldon	52.9	53.5	0.6	1.1	0.3	0.3
Rochford	75.8	75.8	0.0	0.0	0.1	0.1
Southend-on-Sea	162.5	169.9	7.4	4.6	-0.4	7.8
Tendring	127.1	130.9	3.8	3.0	-2.4	6.2
Thurrock	129.6	131.4	1.8	1.4	2.6	0.8
Uttlesford	66.1	67.5	1.4	2.1	0.5	0.9
Essex	1546.9	1569.9	23.0	1.5	11.8	11.2
South East	17636.8	17870.2	233.4	1.3	196.3	37.1
England & Wales	51099.5	51620.5	521.0	1.0	356.1	164.9

(注) Colchester Borough Council 『Colchester Counts』 p. 14

口の流出にある。しかし、現状では、高い出生率による自然増2.7%のために、大幅なる人口減少とはなっていない。

チェルムスフォード(Chelmsford)は、エセックス・カウンティのある県庁所在都市であり、人口155,800人の徐々に成長している都市である。社会増がマイナスに転じているとはいえ、高い自然増(2.5%)を主因に人口増をみている。テンドリング(Tendring)は、人口130,900人であるが、人口3.8千人、3.0%の増加率という高い成長率の都市である。自然増が-2.4%であるにもかかわらず、6.2%という社会増により、人口の大幅なる増加をみているのが特色である。

こうして主なる都市人口の動向をみると、コルチェスターは、エセックス・カウンティの中で、自然増、社会増のバランスをもった総合的な都市であり、“成長地域”にある都市で

あるといえる。

## (2) 人口構造(表1-4, 図1-4)

コルチェスターの人口149,600人を男女比で見ると、1,800人女性が多くなるが、全体として人口の中でのバランスはとれているといえる。しかし、これは世代によって異なっている。44歳までは、人口の中で、女性より男性の方が多い。とくに、20~29歳台が800人の差で最も多い。しかし、45歳以上になると、女性が人口の54%を占めて多くなっていく。女性の人口は、高齢化するに従って多くなり、とくに70歳以上になると、男性より700~900人余多い結果となる。この理由の一つには、女性の長寿化があり、さらに第二次大戦の戦死者の多くが男性であったということも考えられる。

年齢別にみると、20~24歳台が最も多く、次いで25~29歳台である。20歳以下は38,500人で、

表1-4 コルチェスターの人口(年齢別)

年 齢 別	1991年			1994年				91-94年の 増減(%)
	男	女	計	男	女	計	計の比	
0~4歳	5100	4700	9900	5100	4700	9900	6.6	0.0
5~9歳	4700	4500	9100	4800	4600	9400	6.3	3.3
10~14歳	4500	4300	8800	4600	4500	9100	6.1	3.4
15~19歳	5300	4800	10100	5100	5000	10100	6.8	0.0
20~24歳	6800	6100	12900	6600	5800	12400	8.3	-3.9
25~29歳	6200	5900	12100	6100	5800	11900	8.0	-1.7
30~34歳	5200	5200	10500	5800	5600	11400	7.6	8.6
35~39歳	4900	4800	9600	5100	5000	10100	6.8	5.2
40~44歳	5700	5900	11600	5100	4900	10000	6.7	-13.8
45~49歳	4700	4600	9400	5600	5700	11300	7.6	20.2
50~54歳	3800	3700	7500	4200	4300	8500	5.7	13.3
55~59歳	3400	3300	6700	3700	3500	7200	4.8	7.5
60~64歳	3200	3400	6600	3200	3300	6400	4.3	-3.0
65~69歳	2800	3400	6200	3000	3300	6300	4.2	1.6
70~74歳	2200	3000	5300	2500	3400	5900	3.9	11.3
75~79歳	1800	2700	4500	1600	2300	3900	2.6	-13.3
80~84歳	1000	2000	3000	1200	2100	3200	2.1	6.7
85歳以上	600	1700	2200	600	1900	2500	1.7	13.6
計	71800	74100	145900	73900	75700	149600	100.0	2.5

(注) Colchester Borough Council 『Colchester Counts』 p.16

人口の1/4をこえる(25.7%)。30～44歳台31,500(21.1%)、45～59歳台30,200(20.2%)、60歳以上28,200(18.9%)となっている。

こうした人口構造では、コルチェスターの人口構造は、高齢化が進行した高い状況(18.9%)にあるといえる。

10年前の1981年と比較してみると、15～19歳が12,100人で、全体の1/3が20歳以下の人口であった。それ以降、子供や10代の人口は下降し、現在に至っている。高齢人口の急増が大きな特色といえる。

### (3) 労働人口(表1-4)

コルチェスターの20歳からリタイア人口(女性60歳以上、男性65歳以上)までの労働人口の合計は、86,000人である。これは、全人口の57.5%に達する。91年では、全人口の57.2%、81年では53.8%であり、年々、拡大傾向にある。労働人口がこうして増加することは、社会的には、活力ある社会となることであり、好ましい傾向にあるといってよい。

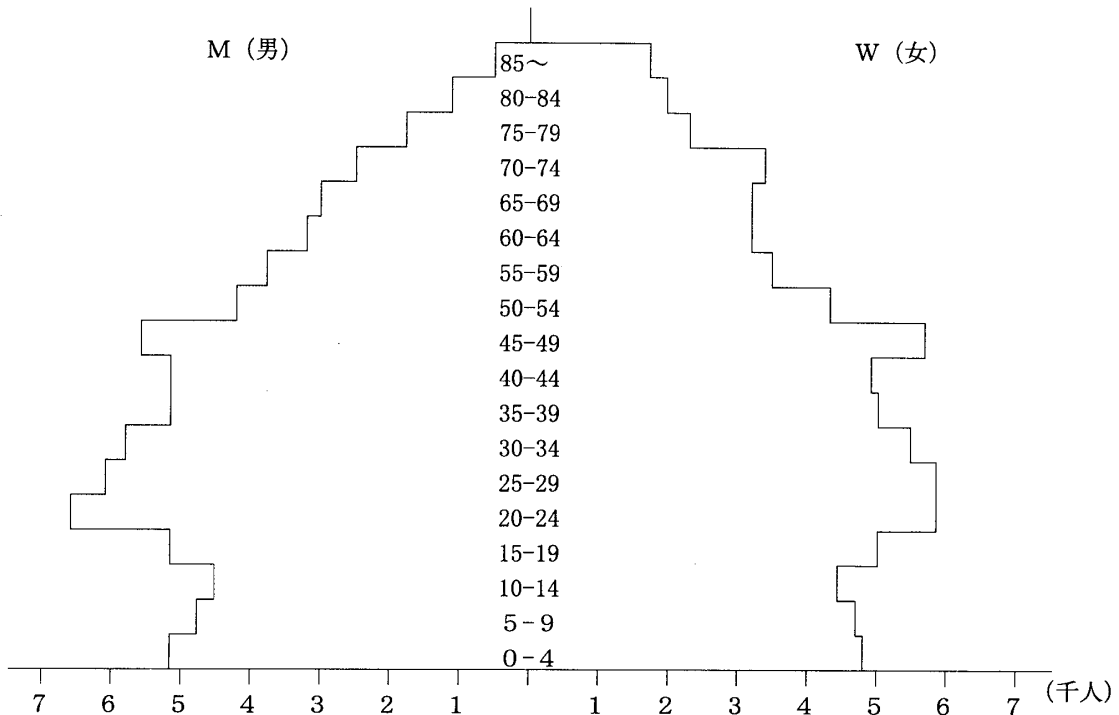
しかし、その内容をみると、2つの問題を含んでいる。1つは、増加要因が、高齢人口にある点である。81年から94年の比較をみると、45歳からリタイア人口が26.9%増となっている。高齢労働人口が、こうして増加しているのである。2つは、若年労働人口(20～29歳)が下降傾向を示している点である。91年25,000人に対して94年24,300人であり、この傾向は、今後継続するものといえる。ここで言えることは、高齢型社会へと向かう中で、労働人口もそのインパクトを受けていることである。

### (4) 高齢人口(表1-4、1-5、図1-4)

コルチェスターの人口構造は、高齢化が進行しているといえる。

コルチェスターの年金資格者人口(男65歳以上、女60歳以上)は、25,200に達する。そのうち、75歳以上が1/3の9,600人となる。こうした世代の人口は、全国人口(イングランド・ウェルズ)と比較すると、より早く地方団体が増え続けるという特徴である。

図1-4 コルチェスターの人口構成(年齢別)



(注) 表1-4の図式(1994年)

コルチェスターでの高齢人口の特色は、女性が64.7%ときわめて多いことである。85歳以上になると、3倍余、女性の方が男性より多いこととなる。この理由としては、女性がより長寿であること、戦争による影響などが考えられよう。

ただし、一つの留意点は、若年人口が、高齢人口と比較して比較的が多い点である。これは、先の労働人口が増加している、ということでもわかるように、活力をもった社会であることを示している。全体の人口としては、高齢化は進行しつつあるが、なお、労働人口が多く、活力は失われていない社会であるといつてよい。

#### (5) 子供と10代(表1-4, 図1-4)

コルチェスターにおける子供や10代の状況をみておこう。

91年と94年を比較してみると、子供や10代の状況は、実数の上では増加している。出生率が比較的高いことが、こうした結果となっている。しかし、全人口における構成比で見ると、下降傾向を示している。ここで言えることは、実数が増加していることも安全ではなく、全体が下降へと向かうギリギリの状況にあるといえる。

高齢化が進行する中で、子供などの若年層がそう少なくはないと思われたが、その内実は、下降へと転じかねない状況にあることがわかる。

#### (6) 人口の地域配分(表1-6, 図1-2, 1-3)

コルチェスターには、議員(Councillor)を選出するための選挙区として27のWardが設定されている。

コルチェスターの人口の大多数は、都市的地域であるTown Wardsやスタンウェイに住んでいる。94年で、バラ人口の66.4%(99,350人)が、この地域に住んでいる。さらに、ティップツリー5.3%、ウエストマーシィ4.5%、ウィベンホウ4.7%となっている。残りの19%の人々は、その他の農村コミュニティに住んでいる。

タウン・ワードやスタンウェイの都市的地域での人口は、1981年以来、10,350人(11.6%)増加している。こうした成長傾向は、さらに継続しつづけるであろう。これは、都心部への人口集中化現象の一つと考えられる。

シャブエンド地区は、コルチェスターで最も急速に成長している地域で、91年から94年で、11.4%の人口増をみている。次いで、ニュータウン地区は、5.9%増で第2位の成長率である。ティップツリー、ウエストマーシィ、ウィベンホウなどの大きなパリッシュ・カウンシル(Parish Council)は、わずかながら増加しているという地域である。

#### (7) パリッシュ・コミュニティの人口(表1-7, 図1-3)

コルチェスターの周辺地域には、日本の町や村に当たる32のパリッシュのカウンシルがある(94年)。こうした地域に住む人々の合計は、57,600人で、コルチェスターの総人口の38.5%に達する。このうち、比較的大きなTown Councilであるスタンウェイ、ティップツリー、ウエストマーシィ、ウィベンホウに約1/2の人々が住み、残りの28ルーラル・カウンシルに28,600人の人々が住んでいる。

これらの地域での特色は、全体的に安定しながら成長しており、その変化は、ごく少しずつ行われている。比較的大きなタウン・パリッシュであるスタンウェイなど4パリッシュでさえ、91年から94年までに100名余の増加しかないのである。しかも、こうした大きなパリッシュでの増加は、農村地域を大きく成長させたいというコルチェスター・バラ・カウンシルの政策の結果でもある。

その他の小さなルーラル・パリッシュにおいては、人口的に、ほとんど大きな変動がない。これらの地域は、人口変動の少ない静態型社会のコミュニティを維持しているもので、人々が生活するのに魅力的な多くの場所を残している地域である<sup>1)</sup>。

ただし、人口の少ないパリッシュは、年々、減少する傾向にある。人口が200~300名と少いために、パリッシュとしての活動がむずかしくなり、隣接するパリッシュとの統廃合が行われている結果である。

#### (8) 将来の人口構成

イギリスの将来人口は、OPCS(the Office of



表1-5 地区別の年齢構成

選挙区	合計 =100%	年齢別 (%)										75以上		長期間の 疾病人口 の%
		年齢										75以上 男性	75以上 女性	
		0-4	5-15	16-17	18-29	30-44	45~ 年金受給者	年金受給者 ~74	75-84	85以上				
Berechurch	7,591	6.9	14.0	2.8	22.9	21.5	17.1	10.9	3.4	0.7	1.6	2.4	10.6	
Birch/Messing and Copford	3,023	5.2	13.6	3.0	14.7	22.6	21.2	10	6.5	3.2	2.9	6.7	12.4	
Boxted and Langham	2,288	5.6	13.5	3.1	13.0	22.1	25.2	11.0	5.1	1.4	2.8	3.7	7.9	
Castle	6,533	5.4	9.8	2.4	23.4	20.1	17.3	11.2	7.9	2.6	3.3	7.1	14.2	
Dedham	1,846	5.1	11.9	2.4	12.4	20.9	22.6	14.7	8.2	1.6	3.6	6.3	11.5	
East Donyland	2,284	7.5	14.8	2.1	18.0	23.0	18.2	9.9	5.0	1.4	2.5	3.9	10.9	
Fordham	1,759	4.9	14.1	3.5	14.7	22.7	24.3	10.6	4.1	1.1	2.2	3.0	7.5	
Gt and Lt Horkesley	2,333	6.0	15.4	3.6	13.2	24.4	21.3	9.1	4.8	2.0	2.3	4.6	8.7	
Great Tey	2,202	6.4	14.4	2.6	13.8	24.4	22.1	10.2	4.8	1.4	2.8	3.3	9.1	
Harbour	7,057	8.3	10.9	2.0	24.3	20.6	14.9	10.5	6.7	1.9	3.2	5.4	13.0	
Lexden	5,393	4.3	14.4	3.4	15.0	19.9	21.9	12.1	6.4	2.6	2.6	6.4	10.8	
Marks Tey	2,628	7.2	15.5	2.8	16.7	25.7	19.6	8.0	3.7	0.8	1.8	2.7	7.8	
Mile End	9,150	6.2	11.0	1.8	26.7	22.8	16.1	8.9	5.0	1.6	2.3	4.3	14.0	
New Town	6,550	6.8	9.1	1.7	33.2	20.9	13.0	8.6	5.4	1.3	1.8	4.8	11.0	
Prettygate	7,184	5.0	14.0	2.8	12.6	21.1	23.1	14.6	5.7	1.2	2.7	4.2	11.2	
Pyefleet	2,244	4.5	13.1	2.7	12.8	21.2	24.8	12.5	6.1	2.2	3.2	5.2	12.2	
St Andrew's	8,225	9.5	16.6	3.1	20.8	21.7	16.1	7.3	3.8	1.0	1.8	3.0	11.9	
St Anne's	7,091	9.5	15.4	2.4	20.1	23.0	17.6	7.9	3.5	0.7	1.3	2.9	9.9	
St John's	7,034	4.6	14	3.0	14.4	22.1	23.3	11.8	5.0	1.9	2.5	4.3	10.7	
St Mary's	6,626	5.5	11.7	3.0	23.2	21.1	16.5	10.0	6.5	2.4	2.7	6.1	11.7	
Shrub End	8,107	12.2	17.1	2.3	26.1	22.1	9.3	7.5	2.6	0.7	1.2	2.1	7.8	
Stanway	7,296	6.2	14.1	3.2	16.1	23.3	20.7	10.3	4.7	1.5	1.9	4.2	11.5	
Tiptree	7,678	6.3	14.7	3.6	16.2	22.8	20.9	9.5	5.1	1.1	2.2	4.1	9.0	
WestBergholt and Eight Ash Green	4,715	6.0	15	3.3	14.3	22.4	22.8	10.5	4.9	0.9	2.2	3.6	9.7	
West Mersea	6,606	4.9	12.6	2.2	12.4	18.8	21.1	17.5	8.5	2.0	4.1	6.4	11.7	
Winstree	2,327	6.5	16.8	3.1	11.6	26.2	21.8	8.8	4.3	0.9	2.3	2.8	7.2	
Wivenhoe	6,759	6.2	13.4	2.6	19.5	23.9	18.6	10.0	4.6	1.2	2.2	3.6	8.3	
Colchester District	142,529	6.7	13.6	2.7	19.4	22.0	18.6	10.4	5.2	1.5	2.4	4.3	10.8	

(注) 1991 Census, Local Base Statistics.

表1-6 選挙区における人口

選挙区	1991	1992	1993	1994	変化 (%)	
					93-94	91-94
Berechurch*	7800	7900	7950	8000	0.6	2.6
Birch-Messing & Copford	3100	3150	3150	3100	-1.6	0.0
Boxted & Langham	2350	2350	2350	2350	0.0	0.0
Castle*	6700	6850	6850	6800	-0.7	1.5
Dedham	1900	1900	1900	1900	0.0	0.0
East Donyland	2350	2350	2400	2400	0.0	2.1
Fordham	1800	1800	1800	1800	0.0	0.0
Gt. & Lt. Horkesley	2400	2400	2400	2400	0.0	0.0
Gt. Tey	2250	2300	2300	2300	0.0	2.2
Harbour*	7250	7350	7450	7500	0.7	3.4
Lexden*	5500	5550	5550	5500	-0.9	0.0
Marks Tey	2700	2750	2750	2750	0.0	1.9
Mile End*	9400	9650	9700	9850	1.5	4.8
New Town*	6750	6950	7050	7150	1.4	5.9
Prettygate*	7300	7350	7300	7300	0.0	0.0
Pyefleet	2300	2300	2300	2250	-2.2	-2.2
St. Andrew's*	8450	8550	8650	8750	1.2	3.6
St. Anne's*	7250	7400	7450	7550	1.3	4.1
St. John's*	7150	7200	7150	7150	0.0	0.0
St. Mary's*	6800	7000	7000	6950	-0.7	2.2
Shrub End*	8350	8900	9100	9300	2.2	11.4
Stanway	7450	7550	7550	7550	0.0	1.3
Tiptree	7850	7950	7950	7950	0.0	1.3
W. Bergholt & Eight Ash Green	4800	4850	4850	4900	1.0	2.1
West Mersea	6750	6800	6750	6700	-0.7	-0.7
Winstree	2350	2400	2400	2400	0.0	2.1
Wivenhoe	6900	7100	7050	7100	0.7	2.9
合計	145900	148600	149100	149600	0.3	2.5

(注) 1. \*は Town Ward 地区(12)を示す。

2. Colchester Borough Council [Colchester Counts] p. 18

Population Censuses and Surveys)によると、2024年までに280万人、5.4%増に成長するであろうと予測される。そのうち、エセックス・カウンティの人口は、95,800人、6.1%の成長が予測される。

これらの成長率を前提としてコルチェスターの将来人口を予測すると、154,000人(2001年)、157,000人(2011年)が現実的な数値として想定

される<sup>2)</sup>。その主要な増加要因は、自然増であり、毎年の出生数が減少傾向にあるとはいえ、死亡数を上回り、自然増となって人口の増加をもたらすものである。

将来人口の最大の特徴は、高齢化傾向の拡大である。とくに、75歳以上の世代の急激な増加が予測される。また、この高齢化は、国レベルよりも地域レベルの方が、より早く上昇する傾

表1-7 パリッシュの人口

PARISH/VILLAGE	1991	1992	1993	1994	変化 (%)	
					93-94	91-94
Abberton & Langenhoe	750	750	750	750	0.0	0.0
Aldham	550	550	550	550	0.0	0.0
Birch	850	900	900	850	-5.6	0.0
Boxted	1350	1350	1350	1350	0.0	0.0
Chappel	500	500	500	500	0.0	0.0
Copford with Easthorpe	1350	1400	1400	1400	0.0	3.7
Dedham	1900	1900	1900	1900	0.0	0.0
East Donyland	2350	2350	2400	2400	0.0	2.1
East Mersea	300	300	300	300	0.0	0.0
Eight Ash Green	1700	1750	1750	1750	0.0	2.9
Fingringhoe	700	700	700	700	0.0	0.0
Fordham	850	850	850	850	0.0	0.0
Gt. Horkesley	2200	2200	2200	2200	0.0	0.0
Gt. Tey	1000	1000	1000	1000	0.0	0.0
Gt. & Lt. Wigborough	250	250	250	250	0.0	0.0
Langham	1000	1000	1000	1000	0.0	0.0
Layer Breton	250	250	250	250	0.0	0.0
Layer de la Haye	1850	1850	1850	1900	2.7	2.7
Layer Marney	250	250	250	250	0.0	0.0
Lt. Horkesley	200	200	200	200	0.0	0.0
Marks Tey	2700	2750	2750	2750	0.0	1.9
Messing cum Inworth	350	350	350	350	0.0	0.0
Mount Bures	200	250	250	250	0.0	25.0
Peldon	550	550	550	550	0.0	0.0
Salcott cum Virley	250	250	250	250	0.0	0.0
Stanway*	7450	7550	7550	7550	0.0	1.3
Tiptree*	7850	7950	7950	7950	0.0	1.3
Wakes Colne	550	550	550	550	0.0	0.0
West Bergholt	3100	3100	3150	3150	0.0	1.6
West Mersea*	6750	6800	6750	6700	-0.7	-0.7
Wivenhoe*	6650	6800	6800	6800	0.0	2.3
Wormingford	400	400	400	400	0.0	0.0
合 計	56850	57650	57650	57600	-0.1	1.3
合計(RURAL PARISHES)	28200	28550	28600	28600	0.0	1.4

(注) 1. \*は Town Council を指す

2. Colchester Borough Council 『Colchester Counts』 p.19

向にある。

高齢化は、労働人口にも高齢労働者の増加をもたらす、若年労働人口の減少傾向と重なり、一層、高齢労働人口の増加を誘引する結果とな

る。全国的に、学齢世代人口は、わずかに増加すると予測されるが、16歳以下の子供の数は下降傾向を示している。

## 第2章 コルチェスターの歴史

ここでは、コルチェスターの都市発展の概要をとらえるために、その概括的な歴史を追ってみたい。

古都コルチェスターは、2,000年にもおよぶ歴史をもっているが、現在の Town の繁栄は、こうした歴史を前提にしているといつてよい。コルチェスターの歴史を遡ってみると、その古さゆえに「イギリスで最も古い記録された都市」と唱われている。その理由は、AD77年に、ローマ人の Pliny the Elder により「Camulodunum から約200マイルにあるブリティンの都市」<sup>1)</sup>として記述されているためである。

約2,000年前、コルチェスターの周辺地域には、トリノバ族という人々が住んでいた。これらの人々は、コールン川沿いに、Camulos のとりでを意味する「Camulodunum」という集落を作り住んでいた。それは、コルチェスター周辺の約31km<sup>2</sup>におよぶ広大な面積であったといわれる。

ローマ時代に入り、皇帝 Claudius は、イギリス征服の拠点としてコルチェスター周辺地域を整備し、新ローマ州の「最初の首都」としての都市建設を進めた。ハイストリートを中心に、ノース・ヒルなどがローマン都市の主要な交差道路であった。当時の Town は、軍関係者が中心として住んでいたが、Claudius 寺院が建てられ、人々が集まりにぎわっていた。この寺院は、現在の Castle の基礎にあたる。

ローマ時代のコルチェスターは、AD250年頃、カースルを中心として Wall に囲まれた都市であった。現在のコルチェスターの基礎がここで作られたものといえる。とくに、ローマン Wall は、外敵から都市を守るために作られたもので、それ以降、部分的な崩壊はあるにしろ、今日までそのまま残され、Town Center をとり囲んでいる。

現在の Town の南西部には、Gosbecks site があり、これは、5,000名が入れるほどの規模の劇場であった。この巨大なローマ時代の劇場は、

当時のコルチェスターの繁栄を物語っている。Wall に囲まれた Town は、10,000人の人々が住んでいた。当時、劇場を中心に8つの寺院、公共水道、40の陶器のかまど、ガラスや鉄の工場、その他の産業があり、初期のキリスト教の教会もあった。

4世紀頃からローマ人が衰退し、5世紀には、サクソン人が主流を占めるようになっていた。しかし、Town の多くは、ローマ時代の建物が壊れず残っていた。

中世紀のコルチェスターは、現代にも残る重要な建物やイベントが多く行われた時代であった。900年代のコルチェスターは、Wall に囲まれた城壁都市として確立していた。この頃、サクソン人は、コールン川のとりでを意味する Colneceaster から Colchester の名称で呼ぶようになっていた<sup>2)</sup>。Holy Trinity Church のタワーは、約1000年に建てられたもので、コルチェスターにある中世の建物の初期のものである。

1066年の William 征服王の勝利で、サクソン人は衰退し、ノルマン人へと力は移行していった。ノルマン人は、コルチェスターを繁栄する港、市場都市と位置づけ、城の建設を始めた。コルチェスターのカースルは、イギリスで最初の石の城であり、1076~1125年にかけて造られ、現在に至っている。それは、ロンドンタワーやノールウィッチ城より先に始まった。その目的は、Town やその周辺地域を統治することと、スカンジナビアからの侵入に守備することであった。

コルチェスターは、1189年、王 Richard I 世から Charter (憲章) を授与され、Borough (特別自治市) としての特権を与えられた。これは、イギリスでも初期の段階の Borough の誕生であった。その特権は、外敵から王軍の被護の下に与えられる権利で、毎年40ポンドを支払い、その代償としてコルチェスター市民が得た特権であった。

その内容は、次の項目である<sup>3)</sup>。

- 1) 2人の執行吏員の選出
- 2) 法廷の開催

- 3) コールン川と漁業権の管理
- 4) 王の森林法の免除(王の森でキツネ, 野うさぎ, イタチ狩りをする権利)
- 5) 市場の保護
- 6) Town 市民は, 他の法廷から除外される
- 7) 商人は, 他の港での税金の免除

この他に, 当時, 多くの宗教的基盤ができ, St Botolph's Priory や St John's Abbey などの教会が建設された。Botolph の一部は, 現在でも残り, 当時をしのぶ観光拠点となっている。1348年, 西ヨーロッパをおそったペストにより, コルチェスター市民の 4 分の 1 は死亡したといわれる。しかし, Town は, 地方の織物産業のブームにより新たな黄金時代を迎えた。

16世紀における政治的・宗教的な闘争は, 地方の出来事に劇的に反映した。St Botolph's Priory や St John's Abbey は, 1550年代のヘンリーVIII世の修道院の解散により閉鎖された。カソリックの娘, メアリー女王の治世では, コルチェスターや周辺地域の40人のプロテスタントが, 異端者として火あぶりや焼き殺された。

1575年, 500名以上のフランドル人の避難民がコルチェスターに到着し, Town のダッチ・コートに定住した。その多くは, 織物関係の職人で, のちのコルチェスターに高質の織物産業を発達させることになった。彼等は, Dutch Quarter といわれるフランドル人のコミュニティを形成し, タウンの一角に住んだ。現在のタウンセンターにあるダッチ・コートの名称は, それに由来している。

17世紀中期には, 市民戦争が勃発し, 王派と議会派との権力闘争が続いた。コルチェスターのタウンは, 1648年の闘争で王派勢力に掌握され, 議会派の軍により包囲攻撃された。コルチェスターでは, 多数の市民が兵士とともに死んだ。包囲の中で, 2人の王派兵士が, カースルの外から火をつけ, コルチェスターは廃墟となり, 織物工場や Wall の一部は崩壊した。そのダメージは, Botolph's Priory Church, St Mary at the Walls Church のタワー, Siege House, town wall などであった。包囲攻撃の後の20年

余で, タウン人口の半分を超える4,000人以上の人々が死んだ。

1700年代初期, コルチェスターは, なお, 繁栄する都市であった。Hollytree や Minories は残ったジョージア朝のマンションであり, 当時の指導的な市民の生活スタイルを想像することができる。

有名な織物産業は, 18世紀に衰退傾向にあったが, Essex での農業ブームが, town の市場や商人に新たな繁栄をもたらした。コルチェスターでは, 伝統的な織物産業が終り, 1820年の穀物取引所のオープンにより, 新たな農業貿易が抬頭してきた。

ナポレオン戦争の時代, コルチェスターには, たくさんの兵隊が駐屯した。その後, 軍隊はそのままコルチェスターに残り, コルチェスターの重要な特徴ともなった。たとえば, 軍人道路や軍隊用 Church である。

1843年, 鉄道が開通され, ロンドンや他のカントリーに早く交通できるようになったが, Town には, そう大きな影響はなかった。コルチェスターは, ミル, 織物, ポート, 酒類醸造などの一連の地域産業を通じての回復を図った。最も新しい産業は, Paxman のエンジン・ボイラーなどのエンジン関係産業であり, これらは, 現代でのディーゼルや英国鉄道の電車などに活躍している。

Colchester Borough Council は, こうした地域産業のブームとともに, カースルパーク, 公共図書館などの公共施設を整備した。ヴィクトリア時代, コルチェスターの人口は, 1901年で40,000人であった。この時代の代表は, 1882年の Jumbo と1902年の Town Hall の建設であった。

Colchester の年表<sup>4)</sup>

- AD43 Claudius によるブリティンの侵略, Camulodunum の占領
- 50 ローマ軍の兵士の居留地が Camulodunum に設置
- 61 居留地は Boadicea 女王の下に Jceni により破壊
- 912 西部サクソンのエドワード王は, コルチェスターのデーン人を攻め, タウンから追出す
- 1086 コルチェスターは, 土地台帳調査に記録される
- 1096 ST John Abbey がエド・ダフィアにより創設
- 1120 エドは Abbey 教会に埋葬
- 1157 ヘンリー II 世は, コルチェスターに法廷を開催
- 1189 リチャード I 世は, タウンに Charter (憲章) を授与
- 1215 フランス軍がサフォルク海岸から上陸し, 城を占領
- 1216 コルチェスターのジョーン王は, フランス軍から城を奪取
- 1255 最初の史員の名前は, ラルフとシモン
- 1282 コルチェスターは20の都市の一つであり, バラは, シュローズベリーで開かれた議会に二人の代表者を送るために召集
- 1318 ST Denys's フェアがチャーターにより確立
- 1354 フィリッパ女王がタウンを訪問
- 1377 この年の Poll tax 記録は, 人口約4,500人
- 1381 “百姓の革命” の間, 記録は破壊された
- 1405 ST John の大修道院長は, ヘンリー IV 世への反逆罪の罪を負う
- 1420 城の巡査が何人かの市民を逮捕。彼等の妻たちは, 城壁の上を歩いて抗議
- 1445 王ヘンリー IV 世がコルチェスターに着任
- 1516 女王キャサリンは, ST John Abbey に一泊
- 1536 コルチェスターの最初の副監督の任命
- 1539 ST John の最後の大修道院長は, 王の首長令の承認を拒否
- 1540 ウィリアム・ギルバード (“電気の父”) は, トリニティ街で誕生
- 1555 プロテスタント・マーティリスがコルチェスターで焼死
- 1561 ヨークの大司教, サミエル・ハースニットが Botolph パリッシュで誕生
- 1579 エリザベス女王が2日滞在し, タウンに宿泊
- 1588 コルチェスターは, アーコダに抗して3船を準備
- 1596 コルチェスターでカソリックが反乱
- 1603 エリザベス女王やジェームズ王の医師ウィリアム・ギルバードは, トリニティ街の家で死去
- 1635 ローマのカソリック服従拒否者(国教への)が城に監禁
- 1635 新しいチャーターがチャールズ I 世より与えられ, 2人の史員に代わり市長が任命される
- 1642 市民戦争(内乱)の開始——コルチェスターの王派はチャールズ王の参加を防止
- 1642 タウンに非・国教遵奉に関する最初の記録
- 1644 コルチェスターにペスト流行
- 1645 コルチェスターの極端なピューリタンは, 世界がこの年で終息すると信じた
- 1648 6月～8月の攻撃: タウンは議会軍に抗する王派勢力により掌握
- 1655 クエーカーのジョージ・フォックスは, コルチェスターで説法
- 1656 クエーカーのジェムズ・パーニールは城の刑務所で死去

- 1660 コルチェスターのサー・ハーボトル・グリムストーンは、下院のスピーカーに選出される
- 1663 コルチェスターでのクエーカーの迫害
- 1665-6 タウンでペスト：4,700人以上が死亡
- 1669 フローレンスのダーク・コスモがタウンを訪問
- 1692 激しい地震：ST ピーター教会がダメージ
- 1693 コルチェスターのウィリアムIII世：サー・イサック・リイボウにナイトを授与
- 1718 ウィリアム・スタキリーがタウンを訪問
- 1722 ダニエル・ティフォーがコルチェスターを訪問、そして『大英国の旅行記』を書く
- 1738 定期の乗合馬車がロンドン往復で開始
- 1742 コルチェスターが規則違反の嫌疑を受け、チャーターは中止
- 1748 モレントの『コルチェスターの歴史』刊行
- 1756 ヘッド門の取壊し
- 1758 ジョーン・ウェスレイ、最初にコルチェスターで説法
- 1763 チャーターが回復し、新しい市長が選出(20年間不在)
- 1776 ジョーン・ハワードは、城や Moot Hall の後にあるタウンの刑務所を訪問
- 1790 ジョーン・ウェスレイ、タウンへの最後の訪問
- 1811 “二人の小さなスター”の共同の著者であるジョーンとアニーティラーが家族とコルチェスターを去る。  
多くの詩は、西ストックウェル街に住んで書いた
- 1820 カウンティ病院が建設：コルチェスター・スフィンクスがその場所から発見
- 1821 カロライン女王の棺がST ピーター教会に一日預けられた
- 1822 ハイストリートで、乗合馬車から31,000ポンドが強奪
- 1823 ガス燈がハイストリートに設置
- 1828 マックレディが王の劇場で4夜公演
- 1837 ST Botolph の現在の教会が奉獻
- 1843 鉄道がロンドンからコルチェスターにオープン、ノース橋が再建
- 1844 ノーマンの Moot Hall が取壊され、新 Town Hall がその場所に建設
- 1852 公立中等学校が Lexden 道に創立
- 1855 歩兵隊キャンプが軍人道路に建設
- 1856 アルバート王は軍隊を視察するためコルチェスターに訪問
- 1860 博物館が城にオープンした：家畜市場がハイストリートから現在の場所に移動
- 1861 チャールズ・ディッキンズがコルチェスターに資料集を与えた
- 1866 ウィベンホウとブライリングシーの鉄道がオープン
- 1867 鉄道がウォルトンまで拡大
- 1874 ポスト事務所がハイストリートに建設
- 1877 現在のハイス橋がオープン
- 1878 ST ニコラス教会が再建、ST ルンワルドが取壊し、そのパリッシュが統一
- 1882 Water Tower (Jumbo) が建設
- 1884 コルチェスターにかなり大きな地震(4/22)
- 1892 カーズル公園がオープン(10/20)
- 1894 最初の公立図書館が西ストックウェル道路にオープン

- 1896 技術・大学の拡大, カレッジの開始
- 1898 行政の電力供給の開始(12/1)
- 1902 現在の Town Hall がオープン(5/15)
- 1904 電力電車軌道の開設(10/22)
- 1909 コルチェスター歴史ページェント(6/21-26)
- 1910 コルチェスター公立中学校の拡大
- 1912 コルチェスター技術単科大学のオープン
- 1915 ドイツ飛行機がバット道路に爆弾を落下(2月)
- 1916 ドイツ飛行船から爆弾がハイスに落下
- 1917 王ジョージV世はコルチェスターを訪問, 軍を視察
- 1920 コルチェスター・カースルがコウドレイ子爵と子爵夫人によりタウンに供与
- 1922 ホーリー・ツリーの家と庭がコウドレイ子爵と子爵夫人によりタウンに供与
- 1927 発掘がホーリー・ツリーのグラウンドで開始: ミスライクの寺院が発見
- 1928 東橋の拡幅
- 1929 ホーリー・ツリーの家が博物館としてオープン(9/26)
- 1930 最後の路面電車が回収され, モーターバスが代行
- 1931 ウェルズ王がオイスター祭に出席
- 1933 バイ・パス道路がオープン(6/29)
- 1935 城の屋根ふきが完成
- 1936 新ヘッド郵便局がヘッド道路にオープン
- 1937 マリー女王が博物館を訪問
- 1938 現代のシェルターが公園やレクリエーション・グラウンドに設置
- 1939 新公立図書館がシェウエル道路に完成, しかし戦争のため延期
- 1940 すべてのコルチェスターの学校が避難, 新警察署がクイーン道路にオープン。ドイツ空軍が, ハイス, オールドヒース, ローマン道路や他の場所を攻撃
- 1941 多くの爆弾がタウンの郊外を攻撃
- 1942 昼間, 空軍が Botolph などのエセックス道路を攻撃。一夜の攻撃で重大なダメージと死傷者。最初のアメリカ軍がタウンに到着
- 1944 一夜の攻撃の火災による重大なダメージがスタンウェル道路, ST Botolph などにある。織物工場や多くの商店が破壊。秋には, 空中爆弾やロケットによるダメージがタウン郊外に発生
- 1947 新公立図書館がオープン
- 1948 “コルチェスター・マーキュリー” が博物館により獲得
- 1950 タウン創設の1900年の祝賀の式典, オイスター祭が1938年以来最初に開催。P.A. サンダースがコルチェスターのハイ・スチワートに選出
- 1951 コルチェスター祭
- 1952 ケント, ハイストリート, コルチェスターは火災で崩壊。コルチェスターの教会再建計画——ST Nicolas, All Saint, ST Martin, Holy Trinity, St. Giles などを含む
- 1953 エリザベス女王II世の即位をすべての町や村で祝う。ウィベンホウ・フィングリグホー間のフェリーが閉鎖
- 1954 レント事業がコルチェスター・カウンシルに導入。Essex 開発計画の調査



### 第3章 コルチェスターの都市づくり<sup>1)</sup>

#### 1. コルチェスターの都市づくり

コルチェスターの中心地区は、タウンセンターといわれ、ローマン時代の Wall に囲まれた地区である(図3-1)。

ここには、3つの重要な建物がある。1つは教会であり、2つは Town Hall であり、3つは Jumbo といわれる上水塔である。教会は過去の市民生活のシンボルであり、市役所(Town Hall)は、現在の市民生活のシンボルである。上水塔は、市民生活の水を確保するための施設である。かくして都市づくりには、この3施設が欠くべからざるものとなっている。

##### (1) 教会(Church)

現在の教会は、宗教としての人々の精神的な信仰の場所であり、死者を葬う場所でもある。

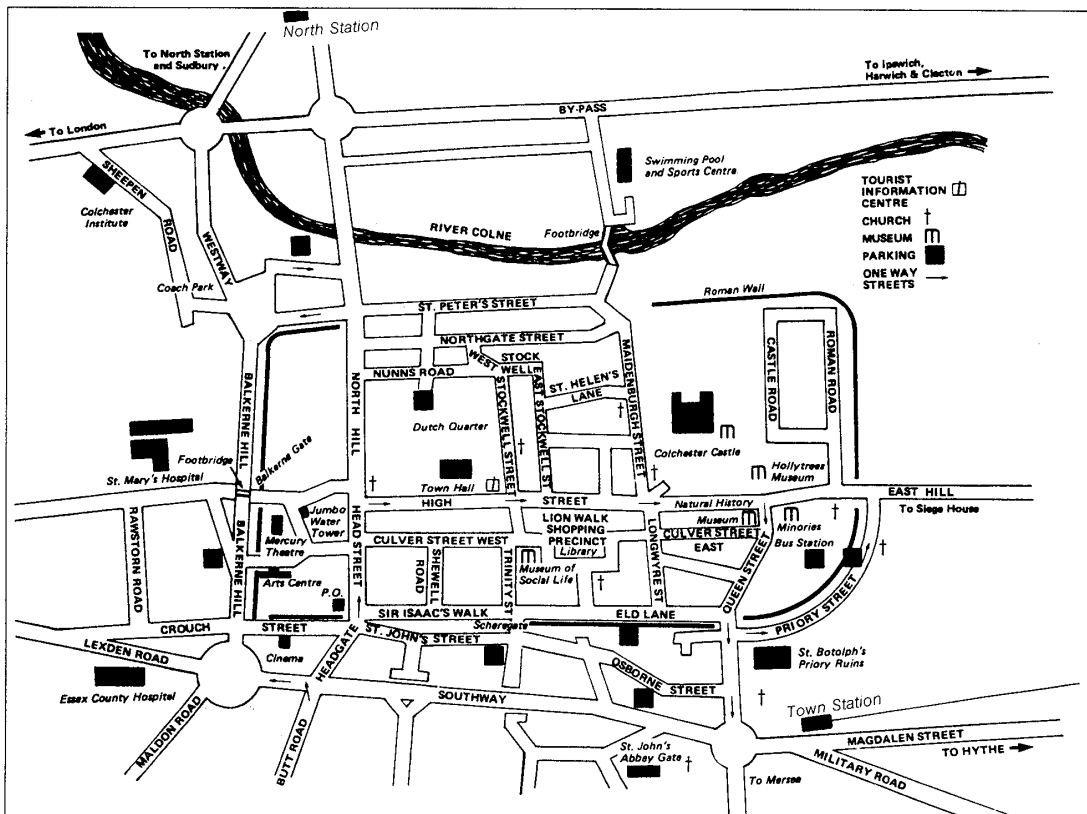
19世紀以前のコルチェスター地域には、カソリック系とプロテスタント系の16のパリッシュ教会があった。それは、Wall 内に8、南門から

Hythe への地域に4、周辺の村々に4と設置されていた。その後、新たな教会が建てられたり、パリッシュ教会が活動を休止したり、という変遷があつて今日に至っている<sup>2)</sup>。

現在のタウンセンター内には、15の教会がある。1000年代の ST Botolph's Priory から新興の教会までを合計したものとはいえ、その数の多さに驚く(表3-1)。このうち、現在も宗教活動をしている教会は6カ所で、ST Peter's などの3カ所がパリッシュ(Parish)教会、その他の3カ所が新興の教会である。パリッシュは教区といわれ、周辺の人々が教会を中心としたコミュニティを作りながら、教会を支え維持管理している。日常的には、日曜礼拝、チャリティー活動などをはじめ、葬儀、結婚式などの市民の日常生活に密着した活動を行っている。

Holy Trinity など2カ所の教会は、カウンシルの博物館(Museum)として活用され、他の2カ所は、ホール、美術館として活用されている。これらの教会は、建物が古く、歴史的遺産とし

図3-1 タウンセンター



(注) Martin 『Colchester—Official Guide』 p. 8

ての価値が高いために、博物館として利用されながら保存され、さらに観光施設としても整備されている。

その他の3教会は、放置されたままの状況にあり、将来の施設利用が検討されているものといえる。その中で、ST Martin 教会は、古く歴史上の価値も高い教会で、現在、修理され新たな施設として再建されつつある。

なお、こうした教会の周辺には、必ず墓地があり、幾つかの十字架の墓がある。

教会の歴史をみると、中世から18世紀ぐらいまでの教会は、宗教活動、埋葬・結婚、パリッシュ・ミーティング(教区委員)、貧者の救済(民生委員)、救貧法関係、税金の徴収、道路の維持管理、巡査などに関するすべてを総合した機能が与えられていた<sup>3)</sup>。

教会には、Chesta という大箱が義務づけられていた。それは、寄付金、献金、税金、埋葬簿、出生簿などの住民に関わるすべての重要物を納入するためのものであった。その鍵は3つ作ら

れ、牧師、教区委員、領主がそれぞれをもち、金品の必要な折に開けていたのである。

要するに、過去の教会は、現在の市役所、税務所、福祉事務所、警察署、教会などのすべての機能を集中していた。この教会を支えていたのが、パリッシュであり、地域の代表者が地区委員として教会を支えてきたのである。

現在の教会は、宗教の場所であり、埋葬・結婚の場所でもある。しかしその他の機能は分散され、その一つが Town Hall である。

## (2) 市役所(Town Hall)

イギリスの Town Hall は、Council のある場所であり、市民の代表者である Councillor(議員)の集まる場所である。議会制民主主義の国、イギリスでは、市民にとって最も神聖な場所であり、最も重要な現在の施設である。

コルチェスターの Town Hall は、時計台のタワーをもつ市内で最も高い建物で、中心部のハイストリートに面したビクトリア朝の荘厳な市役所である。現在の Town Hall は、1902年に建

表3-1 コルチェスター(タウンセンター内)の教会

教会名	現況
ST Botolph's	パリッシュ教会
ST James's	〃
ST Peter's	〃
Eld Lane Baptist	Baptist 教会
Lion Walk Church	キリスト教会
Methodist	Methodist 教会
All Saint's	Natural History Museum
Holy Trinity	Museum
ST Giles's	フリーメイソン Hall
ST Mary's-at-the-Walls	ST Mary's Arts
ST John's Abbey	観光施設
ST Botolph's Priory	〃
ST Helen's Chapel	閉鎖
ST Martin's	〃
ST Runwald's	〃
合計	15

(注) Martin 『Colchester—Official Guide』 p. 36-48より作成

設されたものであるが、その歴史は古く、12世紀に現在の場所に Moot Hall として建てられている。その後、1843年に再建され、現在に至っている<sup>4)</sup>。

現在のイギリスの Town Hall は、日本の市役所と比較して、その大きさに大きな違いが象徴される。イギリスのタウンホールは、議員の集まる Council であり、市民の代表者の集まる場所として極めて大きい。そして近くに、市職員の勤務する建物が小さく建っている。ところが日本の場合、市長を長とする市職員の仕事をすする市役所が大きく、その近くに、議員の集まる議会が建っているのである。

イギリスのシステムは、議会制民主主義の国として、市民の代表である議員が市政のすべてを政策決定するのであり、最高の地位にある。議員は、無報酬であり、ボランティアである。市民のためにボランティアで働くことが前提とされる。市民は、議員のそうした活動に対して尊敬の念を持って対応する。従って、現在でも、議員は市民の中で最高の荣誉ある人々と位置づけられている。これに対する日本は、行政主導、官僚主導の下に、議員よりも市長および地方官僚が中心に行政を推進しているのである。

いずれにしろ、コルチェスター市民にとっては、過去の Church と現在の Town Hall はシンボルであり、最も重要な施設としてタウンの中心地域に設置されている。

### (3) Water Tower

コルチェスターや周辺地域の都市では、必ず Water Tower がある。これは、人々の生活で欠くことのできない水の確保を図るためである。すべての家に水を供給するためには、都市の最も高い丘の上に、Water Tower が必要なのである。

イギリスは、スコットランドの一部の地域を除いて、平面や丘の広がるフラットな国である。このために水道を敷いても水圧が低く、水の出ない場合すらある。そこで、Water Tower が必要となってくる。結果として、都市には、必ず設置されている。

コルチェスターの Water Tower, Jumbo は、1882年に建設されたレンガ造りの約50メートルのタワーである。当時のコルチェスターは、公共の健康の充実を目ざして、純粋な水の供給と汚水処理をテーマとしていた。Jumbo は、それらを達成するためのモニュメントであった<sup>5)</sup>。

イギリスの水問題は、水質が悪いことでもある。コルチェスターの水は、石灰質が多いために、水道水は、5分とたたないうちに表面が白い膜となる。コーヒーや紅茶も同様である。このために一般家庭では、これをこす Water filter を使用しており、月に一度のフィルター交換で簡単にこすことができる。ただし、完全にきれいになるわけではなく、気になる人は、市販のミネラル・ウォーターを使うしかない。しかし、毎日のすべての水をミネラルウォーターでするわけにもいかず、結局、沸かして飲むこととなる。

なぜ、こんなに水が悪いのかを考えてみたが、イギリスの国がフラットだからではないかという結論となった。水は、空から雨として地表に降る。ところが、平面や丘しかないイギリスでは、この水がほとんど流れない。川や池の水は、常にうす黒く、よどんでいる。川には藻さえ生え、ほとんど流れていない。これでは、きれいな水ができるはずがない。他方、日本では、山間地域が多く、常に循環している。そのために、日本の水はいつも流動して、自然にこされてきれいである。

広大に広がるイギリスの畑地や牧場をみていて、水の悪さの原因はこれだと合点しているが、その真意のほどはわからない。ただ、イギリスの都市には、必ず Water Tower という上水塔が丘の上に立っており、これは、昔から水の確保の困難さを示している。

要するに、コルチェスター周辺の都市には、Church と Town Hall と Water Tower があるのである。

## 2. Town Center の整備

Colchester(コルチェスター)のハードな街づ

くりを概観しておきたい。コルチェスターは、人口15万人の都市で、その中心にローマ時代の Wall に囲まれた Town Center 地区をもっている<sup>6)</sup>。タウンセンターは、古都コルチェスターの政治行政の拠点であると同時に、商業、ビジネス、観光、ショッピングの中心地でもある(図3-1)。

Wall は、1～2世紀頃にローマ人によって作られた赤いレンガと石の壁で、約1.5マイルの長さで Town を囲んでいる。17世紀中頃のイギリス市民戦争でひどく破壊されたが、その後、再建された。現在では、その3分の2を見ることができる<sup>7)</sup>。Wall は、コルチェスターにとっては最も貴重な遺産の一つである。イギリスでは、Wall に囲まれた都市づくりは、カンタベリー、チェスター、ヨークなどの古都にみられる特徴である。

タウンセンターの中核は、ハイストリートであり、その中央部に Town Hall がある。その他、銀行、デパート、スーパー、ホテルなどの主要な施設のすべてが、ハイストリート沿いにある。北部にはノーザンロードがあり、ノース駅へと続く。南部にはサウス道路があり、Town 駅へと続く。こうした道路は、タウンセンターを囲む形で整備され、周辺の諸都市へと結んでいる。

タウンセンター内には、商店、事業所、公共施設、教会などの観光施設があり、北部の4分の1には、Dutch Quarter(ダッチ・コーター)という住宅地がある<sup>8)</sup>。人々は、こうしたタウンセンター内で、ビジネス、観光、ショッピングなどのすべてを充足している。ショッピングの実態については、別項で述べたい。

ダッチ・コーターは、タウンセンターの4分の1を占める住宅地であるが、かつて1575年頃から500名余のフランドル人が中心に住んでいたものである<sup>9)</sup>。今日では、タウンセンター内で唯一の住居地域に指定されている。

タウンセンターでは、ローマ時代から中世にいたる多くの歴史的遺産を保存・修復するために様々な施策が行われている。教会を中心とする歴史的価値の高い施設は、現状維持または過

去の復元を前提とした保存・修復が現在でも継続して行われている。この保存・修復には、莫大な経費とプロフェッショナルな職人の確保が必要となり、長期間にわたることが多い。

コルチェスター・バラ・カウンシルでは、すでに居住する一般家族や事務所、商店などの建物の増改築について、歴史的遺産や景観を現状維持または保存・修復する方針で、強力な行政指導を行っている。建物の外面は現状のままとし、内面だけの改修を図るなどの工夫により、街の景観が大きく変更されないようにするなどの、景観的配慮を十分に確保した上での行政指導がなされている<sup>10)</sup>。

駐車場の整備は、センター内の交通量の抑制と来訪者への車対策として重要である。一般市民には、Wall の四方に大きな駐車場を設け、ビジネス、観光、ショッピングなどのために供している<sup>11)</sup>。業務用の車のためには、地下駐車場を整備してウォール内の事業者へのニーズに答えている。ウォール内に入る車を少なくするために、様々な対策を実施している。人々は、これらの駐車場に車を駐車させ、ウォール内を徒歩で用事を済ませるというシステムである。

ウォール内には、公衆トイレが8カ所、市民向けに整備されている<sup>12)</sup>。これは、バラ・カウンシルの行政サービスであり、きれいで、無料のトイレを提供している。トイレは、きめ細かく清掃され(1～2時間に1度のパトロールがある)、チリ紙がつき、「洗剤、水道、温風ヒーター」の3点セットが必ず取り付けられている。イギリスでは、トイレが汚れていたり、有料であったり、どこにもなかったりということがあがるが、ここでは、その解消が図られている。

他方で、ウォール内の商店などの施設には、トイレがほとんどない。公衆トイレを利用することが前提となっているのである。意外なのは、中心部にある Essex County の図書館にもトイレがないことだ。トイレは公衆トイレを利用して欲しいとのことであり、これほど徹底している。もっとも、障害者用のトイレだけは、用意されている。

図書館は、Essex County の所管である。County 内に90館あり、そのうちのひとつがコルチェスターのタウンセンター内の商店街にある<sup>13)</sup>。一階は音楽関係が中心であり、資料とビデオ・テープが多く、貸出の利用者も多い。二階には、一般向と児童向、さらに「Local」関係の室となっている。一般向には、各種の本があり、利用者も多い。児童向は、多くの児童関係図書が用意されている。いずれも開架式で、自由に出し入れできるので便利である。「Local」関係室は、Essex County や Colchester Borough、その他の地方団体関係の多くの図書、資料が収集されている。

この図書館は、音楽関係と Local 関係に重点をおいたもので、関係する専門職員が配置され、様々なアドバイスをするシステムとなっている。図書館は、多くの市民が気軽に利用しており、貸出図書も多く、市民の手近な情報源として親しまれている。開架式で利用もし易く、外国人も自由に出入りできる。

タウンセンターの北東部には、カースル・パークがあるが、その詳細は別項で述べる。カースル・パークの入口の反対側道路には、インフォメーションセンターがある。コルチェスター Borough Council の直営で、市内の様々な情報については、ここが担当している。とくに観光客には、市内の観光案内をすると同時に、ホテル、ホームステイの斡旋、本、パンフレット、みやげ物の販売なども行っている。イギリスの都市や主な駅には、このインフォメーションセンターが「i」の印で必ずあり、観光客に対する何でも相談の窓口となっている。

タウンセンターの周辺部には、スーパーのテスコ、建築関係店などの大規模店が数店進出している。これらの大型店は、品物が多くて安い、そして、大きな駐車場をもち、日曜日や時には休日にも開店している。従って、車をもつ買物客がたくさん利用しており、タウンセンター内の商業店のライバルともなりつつある。

タウンセンターの周辺地域には、幾つかの既存の住宅地が整備されているが、新たなニュー

タウンの開発も行われている。コルチェスターは、市域が広いこともあり、人口増が続いているが、これは、こうした周辺地域における住宅地の開発が徐々に進行しているためである。ロンドンに50キロ余という立地条件は、都市化の拡大とともに、コルチェスターをロンドンへの通勤圏とさせつつある。すでに通勤時間帯には、ロンドンへと通う若いサラリーマン層が増加し、ラッシュアワーの状況を示している。

コルチェスター Borough Council は、一方で、タウンセンター地区を中心とした歴史的遺産の保存修復を図りつつ、他方では、新たな開発へのニーズを受け入れてきた。そして、双方のバランスをとりながら街づくりを進めてきたもので、現在のタウンセンター地区は、そうした努力の産物でもある。

### 3. ショッピングと市民生活

コルチェスターのタウンセンターは、事務所とダッチ・コートターの住居地を除くと、残りの4分の3の大半は、ショッピング施設である。

ハイストリート (High Street) をはじめ、センター内の主要道路には、さまざまな商店が並んでいる。さらに、Red Lion 地区や Culver 地区などの再開発地区は、ニューデザインの若者向けのファッショナブルなショッピング店が多い。こうしたショッピング街には、マークス・スペンサーやセンズベリーなどの大手スーパーが配置されている。

人々は、こうした一大ショッピングエリアで、日用品の買物や観光向けの買物など、そのニーズに応じたショッピングを楽しんでいる。商品は、ファッション性よりも実用品が多く、そう洗練されているわけではない。高級品よりも一般向商品が多く、品物は安いという感じである。市民は、街をブラブラ歩きながらショッピングをエンジョイしているのである。

ここで日本と大きく違うところがある。これらタウンセンター内の商店は、ウィークデーで5時半位で閉店となり、日曜日・休日はすべて休業となる。従って、常時、人々が一杯であつ

た通りや街中は、5時半以降あるいは日曜・休日には、誰もいない静かな街となってしまう。ウィークデーの5時半以降、これらの街を歩くと、人々はほとんどいない。開店しているのは、パブ、バー、レストラン、ホテルの食堂、ピザハウスなどのアルコールを中心とする店のみである。これらの店は、若者や仕事帰りのサラリーマン層でにぎわっている。

パブ(Pub)は、日本の赤ちょうちんという感じで、サラリーマンなどがカウンターに立ち雑談している。彼等の多くは、つまみもとらずにビールなどのアルコールを飲み、仕事帰りの1時間余に寄り、家に帰るというパターンであろう。なお、パブで食事をとることもできる。これは、昼間の時間帯か、アルコールの後に食事をとる人々のためにである。

パブ、バーなどで若者向けの店は、若者が飲みながら雑談したり、ゲーム、踊りなどを行っている店で、若者の唯一の娯楽の場所となっている。レストラン、ピザハウスなどは、家族向け、低年層向けである。

コルチェスターのような地方都市のほとんどは、商店の閉店時間である5時半頃を境に、街の雰囲気は、家族一般の街から夜の大人の街へとムードを変えていくのである。

#### 4. 弱者にやさしい街づくり

イギリスの街を歩いて気がつくことは、弱者にやさしい街づくりをしている点である。弱者の中には、高齢者、障害者、母子などを含んでいるが、これらの人々は、健常者と同様に扱われ、また、自信をもって活動しているためである。

たとえば、高齢者である。コルチェスターには、高齢者が多く見受けられるが、高齢者は、街中での買物、公園、バスなどのすべての施設の中で健常者と同様に行動している。人々は、高齢者とわかれば、その歩調に合わせてゆっくりと歩き、車などは、早目に止まって歩きゆくの待つという状況である。必要に応じてケアすることは言うまでもない。

バスでは、その速度に合わせてドアの開閉をゆっくりしたり、ステップの上り降りに手をさしのべたり、とにかく、見ていて高齢者に大事に対応していることがわかる。うらやましい限りである。電車の駅でも、高齢者への対応は行われている。高齢者の荷物をもって駅員がホームまで行ったり、誘導して電車に乗せたりすることは、常に行われていることである。

なお、高齢者で忘れられないことは、高齢者が街中で仲良く手をつないで歩く光景である。日本では、70~80歳に近い高齢者が手をつなぎながら歩く姿を見たことはほとんどない。習慣が違うとはいえ、お互いに助け合う二人の姿を見ると、見習いたいものである。

障害者についても同様である。disabilityといわれ、様々な分野でその対策が行われている。最近多くみられるのは、障害者による買物である。これは、コルチェスター Borough Council による行政サービスの一環で、Shopmobility<sup>14)</sup>という。障害者が自分で買物ができるようにするために、電動の車いすやスクーターを貸出し、障害者単独あるいはヘルパー同行で、タウンセンター内におけるショッピングを楽しむというものである。事前に登録し、年間4ポンドの費用を払うだけで、利用したい時に電話をすれば、バスステーションの拠点に担当者が出迎えるというシステムである。なお、カウンシルでは、これを実行するために、従来の石畳の道を少しずつコンクリート製の段差の少ない、ガタガタしない舗装へと改装しているところである。

障害者が車いすで歩行するためには、建物の出入口が広い、段差がない、自動ドアにする、道路がガタガタでない、などの様々な問題があり、街全体の再検討が必要となる。コルチェスターでは、当面、タウンセンター内の商店街に限定してこのshopmobility政策を進めているとのことであり、街全体に可能でないことは言うまでもない。

あるスーパーでの光景である。一人の視覚不自由と思われる客に、一人の定員がついて棚の商品を説明し、手に持たせてショッピングをケ

アするという事までしている。バラ・カウンスルの指導・PRの結果でもありと思われるが、民間の協力も重要である。

とにかく、イギリスで気をつくことは、電車、バスなどの乗り物に車いすや乳母車の母子、さらには犬、自転車などが人間と同様に乗車していることである。公共の乗り物は、こうでなければいけないと考えさせられる。それには、日本でのラッシュアワーのような混雑状況では不可能で、日本がイギリス並みとなるのは、まだ先のことのようなのである。

母子が乳母車で街を歩くというのは、イギリスのどこの街でも見かける光景である。家族と一緒に行動するのは当然であり、そうしない方がおかしいとさえ考えられていると思える。バスに乳母車が上り、母親が乳母車を折りたたみ席に座るまで、運転手はバスを止めて待っている。そして、バスの中には、その荷物を置く場所が用意してある。私など初めはイライラしていたが、そのうち、これがむしろ当然ではないかと考えるようになった次第である。スーパー、デパートなどの商店にも、乳母車は当然のように出入りする。買物する母親の行くところは、すべて一緒である。

要するに、高齢者、障害者、母子などの、いわゆる弱者は、街の中で健常者と共に生活するのは当然であり、それが可能な街をつくるのが、これからの街づくりであろう。そのためには、全体のシステムを改善すると同時に、身近にいる健常者が常にケアすることの重要性を再確認した。

## 5. カースル・パーク(Castle Park)

コルチェスターのタウンセンターの北東の一部は、カースル・パークという公園である。市街地の中心部に、13.5haの広大な公園とグラウンド、グリーンが隣接してあり、すばらしい景観である。

カースル・パークは、カースル(城)の公園であり、コルチェスター Borough Council が管理している。その歴史は、1892年に公園として作

られたもので、100年を超える。ハイストリートに面した公園の入口からコールン川までの広大な地域は、徒歩で一周すると一時間余を要する。

公園の中の古城は、ローマン時代の赤のレンガと石造りで、現在、コルチェスターの博物館(Museum)として開館されている。博物館では、ローマ時代や古代イギリスの陶器、その他のさまざまな歴史的資料を展示し、コルチェスター周辺地域の歴史を市民に解説している<sup>15)</sup>。

公園は、ウォールから上のアッパー・パークと下のローアー・パークに分かれ、周囲を高い鉄道のへいに囲まれている。夏期には22時頃まで、冬期には17時頃まで開館され、多くの市民が訪れる。

アッパー・パーク(Upper Park)の庭には、100年以上のマロニエの大木やその他の多くの木々と広い花壇があり、その多くは芝生に覆われている。隅にはコーヒー店やトイレがあり、来訪者の憩いの場所となっている。花壇には、四季に応じて様々な花がきれいに植えられ、訪れる人々の写真のバックとなっている。とくに春から夏にかけては、水仙、チューリップ、パンジー、スミレ、バラなど、シーズンを代表する美しい花々がきれいに植えられ、人々の目を楽しませてくれる。その美しさは、プロの庭師がシーズンに合わせて花を変え、デザインを変えているもので、その技に感心させられる。

ローアー・パーク(Lower Park)は、ウォールの下で、ここには、広い芝生とボート遊びのできる池とコールン川がある。池と川の水面には、多くの野鳥が訪れ、川沿には、多くの野草が咲き、季節の香りを高めている。

広大な芝生は、市民の憩いの場所として自由に使われている。4月から9月の春から夏のシーズンには、毎週の土曜・日曜を中心に、何らかのイベントが開催され、多くの市民が集まる。とくに、夏期はこの芝生を野外スタンドに音楽会が開催される。コルチェスター Borough Council は、レジャー行政の行政サービスとして担当しており、これらのシーズンのさまざまなイベントを主催している。大人向けの音楽会、

子供向けのイベント、その他のチャリティー大会など、その内容は多様である。また、夏期の夕方6～7時頃には、子供連れの家族が、サッカーやボール遊び、夕涼み、散歩などで利用している。この他に、老人向のボーリング場、クリケット場、芝生のグリーンなどが隣接している。

こうした公園を中心とした芝生やグリーンの活動内容をみると、公園や芝生は、市民のために自由に開放され活用されている。とくに日本では、芝生に人が入るのを禁止しているが、イギリスでは、人が自由に入り、時には車さえ入って活動している。これが芝生や公園の真の使い方ではないか、と考えさせられる。そもそも日本の公園には、体育館やテニスコート、グラウンドなどの施設が多く、ごくわずかな芝生やみどりしか植えられていない。イギリスでは、芝生と木々が中心であり、一部に池や施設があるだけである。

ちなみに、公園や一般家庭にある木々を挙げておこう。カシ、ブナ、ポプラ、白樺、マロニエ、プラタナス、サクラ、柳、モミジ、ほだい樹、一位の木、ハンの木、イチヨウ、クリ、アカシア、フジなど。

池には野鳥が人々を怖れず、エサを求めて集まっている。白鳥、カモ、カナダガン、バン、大バン、カモメ、カササギ、ブラックバード、ホシムクドリ、スズメ、ハトなど。

コールン川沿には、四季折々にたくさんの花々が咲き、市民の散歩を楽しませている。タンポポ、昼顔、デージー、ノコギリ草、アザミ、スマレ、忘れな草、水仙、ショウブ、蒲ノ穂、センノウなど。

こうした野鳥や草花を見ていると、イギリス人は、自然や動植物を愛し、それを育てるために努力をしてきた国民だということがわかる。

## 6. 公園・みどり

イギリスには、park, ground, field, springs, woodなどの公園や緑地・みどりを示すことが多い。都市の周辺には、多くのみどりが計画

的に配置されている。これを見ていると、イギリス人は、みどりや自然を愛し、親しむ国民であることがわかる。

カースル・パークは、別項で書いたが、マロニエの大木を見ていると、数百年の歴史があることがわかる。日本との違いは、みどりを大切にするという歴史と文化であろうか。

コルチェスターから30分ぐらいのところHigh Woods Country Parkがある。これは、コルチェスター Borough Councilが管理する森に囲まれた、いわば自然公園である。池や森には、多くの野鳥が訪れ、正に、野鳥や小動物の楽園である。

このHigh Woods Country Parkは約200ヘクタールの面積をもち、1500年代の王の森林の一部で、3つのファーム(牧場)からなっている。この中には、中心に湖があり、その周辺にみどりの芝生があり、さらに周辺をWoodlandがとり囲んでいる。隣接して低木帯や湿地、ほし草畑、農場があり、コルチェスター周辺の昔のカントリーライフをそのまま再現しているのである<sup>16)</sup>。

この一角には、ビジターセンターが一つあり、カウンシルの職員が常駐している。この他には、建物らしきものは何もない。担当職員は、(1)レインジャーサービス、(2)教育サービス、(3)イベントなどをシーズンに合わせて行っている。訪れる人々からの質問に応じて、野鳥や植物を解説し、アドバイスしている。小学生グループには、野外教室として実物を見ながらの指導がなされている。この他、ボランティア・グループが、集団で草を刈ったり、柵を直したり、さまざまな仕事を分担して働いている。

Lexden 地域には、Lexden Springs というみどりがある。ここは、道路沿の斜面を利用した緑地で、小高い丘の一面は、芝生で覆われている。その中には、カシやマロニエの大木がポツンと立っている。下枝をとり、上へと大きく伸びた木は、30メートル余の高さにのび続けている。

このSpringsは、1990年に作られたもので、コ



ルチェスター・バラ・カウンスルが管理している1.8haのみどりである<sup>17)</sup>。昔の牧草地をそのまま利用したもので、牛や馬が休むために、大木の木陰を作り、ベンチを置いてある。カウンスルは、こうした牧場や農場を利用したみどりを都市の周辺に計画的に整備していく方針と思われる。

人々は、こうしたみどりを大いに利用する。夏の日ざしの強い日には、大きく広げた木の下で休むのである。そのために広い芝生の中に大木を植えてあるのであり、“大きなカシの木の下で”ということになる。こうした緑地には、広い芝生・ベンチと木々が植えられている。芝生はいつもきれいに刈られ、ごみ一つ落ちていないほど、キチンと管理されている。近くの立て札には、「犬のフンを取ることを、ゴルフや馬の走行を禁止すること」と書かれている。近くに馬を飼い乗る人がいるのであるから、日本では想像もできないことがわかる。

人々は、夏の天候の良い時に、こうしたパークやグリーンに、家族で弁当をもって訪れる。日曜日や休日には、一日がかりで訪れる、いわゆるピクニックである。こうした休日の過ごし方がイギリス流なのである。これらの光景を見ていると、のんびりとした一日が過ぎ、正に、生活をエンジョイするとは、このようなことではないかと思われる。こうした公園やみどりが、都市の周辺のいたるところに点在しているのであるからうらやましい限りである。

そこでの問題点をあげてみよう。一つは、市内にあるこの種の緑地・みどりは、広大な面積となるであろう。その中にある芝生を刈り、木々の管理をするには、相当のコストが必要となる。芝生など6～7月の最盛期には、一週間余ですぐ伸びてしまう。それをいつでも伸び過ぎないほど良い状況に刈っておくには、それなりの見回りなどのチェックと管理が必要となる。朝夕には、担当者が草刈り車で芝生を刈るのをよく見かける。

芝生などみどりの管理の難かしさは、生き物であるために、永久に需要が減らずに拡大する

点である。日本でのみどりの維持管理の難しさは、このコストの増大である。みどりの拡大は、すぐに人件費やコスト増となるためである。みどりの拡大が行われない理由は、この点にあるとも考えられる。

二つは、都市化が進むにつれて、こうした緑地が少なくなりつつあるのも事実である。緑地の背後には、住宅地がおし寄せるといふ光景はしばしば見られる。イギリスでのみどりも必ずしも安全ではないのである。

その一例に Public Footpath がある。フットパスは、人々がこれらの緑地を歩く場合、それをつなぎ歩ける唯一の道である。Essex County の全域に、主要な緑地をつなぐ足のネットワークとして、このフットパスは整備されている<sup>18)</sup>。しかし、都市化が進み、個人の私有地が開発されると、このフットパスが切断されていることがある。その前兆に、開発の進む地域のフットパスの多くは、管理が不十分で、ゴミなどが捨てられている場合がある。

開発が進み、みどりが破壊されていくのは、イギリスも日本と同様のものである。イギリスの場合、ナショナル・トラストやイングリッシュ・ヘリテイジなどの団体が、自然保護のために活動している。

## 7. 都市づくりと Station

イギリスの都市づくりの特色の一つは、都市の中心街と鉄道の駅(Station)とが分離していることである。コルチェスターの市内には、コルチェスター North とコルチェスター Town という2つの駅がある。これらは、ともに中心市街地から少しづつ離れて立地している。

ノース駅は、ロンドン(リバプール・ストリート)から50分余の駅で、クラクトン、イプスウィッチなどの北東海岸へと向かう大半の電車は停車する。ロンドンへの窓口として、1時間に4～5本の電車の便がある。ノース駅からコルチェスターの中心街には、バスで5分余、徒歩で20分余である。ノース駅周辺は、事務所や住宅地が広がり、商店など見当らない。コルチェス

ターのタウンセンターから、市民は、車またはバスか徒歩でノース駅に行くこととなる。不便ではあるが、駅と都市の発展とは、無関係である。

タウン駅は、タウンセンターの南端にある。しかし、その本数が少ないこともあり、駅の周辺は、そうにぎわっていない。タウン駅はノース駅から10分余の一駅とはいえ、支線であり、本数は1時間に1本でしかなく、人々の利用は極めて少ない。電車は、ノース駅からタウンセンターをはじめとするコルチェスターの市街地をう廻して半周する形でタウン駅へと走っている。これは、タウンセンター内の歴史的文化遺産を保存するために、う廻したものといえる。

いずれにしても、都市づくりと鉄道の駅とは分離した状況にある。コルチェスター市内の市民の足は、車かバスである。市域が広いので、多くの市民は車を利用しているが、しかし、買物・通学などには、バスが多く利用されている。市街地での市民の足はバスである、と考えてよい。このバスは、一階建を中心に、二階バス(W デッカー)も3分の1余はみられる。

コルチェスター市内には、道路に合わせたバス路線のネットワークがある。こうしたバス利用は、イギリスの多くの地方都市で見られる特色である。日本と比べ面積が広いので、道路での渋滞もないためか、バスは一般市民の日常生活での足となっている。

## 8. 道路と交通

イギリスの道路と交通に関する問題について、日本と比較しながら概観してみたい。

車は右ハンドル、左側交通で、人間は右側交通であり、日本と同様のシステムである。しかし、イギリスの道路には、古くて旧式型のガタガタした車が多く走っている。これは、車検などによる規制が厳しくないというシステムの違いによるためであろう。車のスピードは速いが、その代わり、人が信号に立てばすぐに止まってくれる。これが運転手のマナーでもある。

道路は、歩道と車道が分離され広い。この広

い道路には、すいているせいか、フルスピードの車が走るの、近くの歩道を歩いていても怖いことがある。スピード制限がないのではないかと思われるほどである。

なお、こうした道路には、歩行者優先のために、ゼブラという特別の黄色のランプの点滅する信号があり、ここに人が立つと、車は必ず止まって優先してくれる。人は安心して通れるようになる。車は道路をフルスピードで走っているが、歩行者優先も忘れてはいない、というシステムである。

道路の交叉点は、信号のない Round-about (ラウンド・アバウト) である。これは、交叉点の真中に円形のゾーンがあるだけで、信号はない。車は、円形に沿って右回りに回転しながら自分の行きたい方向に出ていくというシステムである。この交叉点は、信号がないので車は停止する必要がないのが特徴である。このラウンド・アバウトは、慣れないと難しく、円形の道路を何回も回転してしまうとのことである。とくに、二車線道路では、さらに複雑で、よく事故が起こると聞く。

ラウンド・アバウトは、車にやさしいシステムだという。交叉点の信号がないので、車はノンストップで走ることができ、停止するテーマが省けるのである。従って、信号での停止がないだけ、車の渋滞が少ないと思われる。この意味では、日本にも導入したらどうかと思われる。しかし日本では、車が多すぎて難しい。さらには交叉点が狭すぎて回転できないともいう。要するに、システムに合う条件が重要であり、単純に結果だけをマネするわけにはいかないのである。

イギリスの幹線以外の道路は、曲っていたり、行き止まりとなってしまうことが多い。その理由には、2つ考えられる。一つは、道路のなりたちや土地の所有形態からである。イギリスの土地所有は、貴族や領主などの一部のエリートが広大な土地を所有するというスタイルで現代に至っている。広大なフラットの地域は、行けども行けども一人の所有者の私有地である。

この土地の所有システムは、近代の車社会になっても変わらない。車のための道路を作るには、この private estate を通過しなければならず、かくして、直線でない曲折した道路が多いこととなる。さらには、個人の所有者の都合で、自分の所有地の中だけに直線道路を通し、先が他人の土地のために、その境界で行き止まりとなることがある。こうした道路の多くは、本来私有道路なのである。

なお、こうした広大な private の estate と estate の間をつなぐ人間用の道路が、public footpath である。public は、あくまでも private が前提となって、生活上の必要のために個人が私有地を出し合い、共有したものである。

もう一つの理由は、都市づくりへの考え方にある。イギリスをはじめとするヨーロッパの多くの都市は、宮殿や広場、サークルなどを中核とした、円形の都市づくりが主流をなしている。都市づくりは、メインとなる施設が主流にあつて、それをつなぐ手段が道路でしかないのである。この結果として、道路は、曲がっているのが当然である。

近代的な都市計画の考え方は、基盤の目の型の都市づくりを前提とした直線型の道路である。これは、車のスピードを確保するという車の効率性を優先した考え方が基本となる。現代の日本における都市づくりの多くは、このシステムを採用している。駅前立つと、どこも同じ街並みで、駅名を変えればどこも同じという個性のない都市づくりが横行している。基盤の目の型の都市づくりが、画一的に行われているからである。この場合、道路を優先するあまり、

都市づくりの全体のバランスを欠く結果となっているともいえる。

歩行者は、信号が赤であろうと平気で道路を渡る。信号の赤や黄は危険信号でしかなくて、車さえなければいつでも渡っていく。「信号が青以外には渡ってはいけない、渡る人はマナーが悪い」という考え方の日本とは大違いである。要するに、道路は人間のためにあるのであり、車がなければ、信号が赤であろうと無関係に通ればいいのである。これがイギリス流である。

最後に、日本に導入すべきだと思うのは、道路を凸させて車のスピードを制限させる uneven road (デコボコ道路) システムである。住宅の入口、学校、大学、公園などの出入口には、この凸システムが導入されている。道路が凸しているために、車は必ず除行して走るのでスピードを下げざるを得ない。人間優先の場所では、道路を凸させておくことで、車に物理的な警告を与えるのであり、日本でも導入可能なシステムである。

もう一つ日本で考えられないのは、ガソリンの自由化である。イギリスのガソリンスタンドは、ほとんど無人であり、ガソリンを入れる機械だけが置いてある。運転手は自分で必要なだけのガソリンを入れ、事務所に行って料金を支払う仕組みである。

もちろん、スーパーなどが経営するガソリンスタンドがたくさんあり、すでに2~3割のシェアがあるという。ガソリンも他の製品と変わらないのである。行政の規制緩和が叫ばれているが、車検やガソリンの取扱いなどは、日本での規制緩和すべき対象事例の一つであろう。

## 第4章 カウンシルとスタッフ

### 1. カウンシルとスタッフの構造

イギリスの地方団体は、今日、過渡期の流動化の時代にあるといえる。その一つは、サッチャー政権以降の国レベルにおける行政改革の動向であり、カウンティ(日本の府県)の廃止であ

る。

議会主義の国、イギリスの地方自治は、地方自治の小学校である、地方団体は、カウンシル(Council)が中核となって、それを行政スタッフが支える仕組みである、といわれてきた。

日本の議決機関である議会と執行機関である首長組織(市の場合、市長部局組織)という二権

分立のスタイルと比較した場合、イギリスのカウンシルは、議会が上位にあってそれを下位の首長組織が支えるという双方が一体化した運営であるといわれている(図4-1)。

たとえば、山下氏はこの点を次のように記述する。「地方自治体には、公選の議員から構成される議会が置かれ、その議会の指揮の下に公務員からなる行政各部が、それぞれ所管分野の行政執行にあたるのである。行政執行部門の長は、我が国のような公選の首長ではなく、議会が審議機関かつ執行機関として行政執行の責任を負う。」<sup>1)</sup>

ところが、現在のイギリスでのカウンシルにおける実態は、そうした議会と行政スタッフとが一体化したカウンシルの運営は、すでに古いスタイルとなりつつあり、むしろ、少数となっている。

現在では、日本と同様に、二権分立に近い形式の2つの組織が制度化されている。そして、政策の審議決定は、Full Council から Committee に委任され、行政の執行は、Full Council から Chief Officer へと委任され、運営されている。ただし、執行は、カウンシルで決定されたものについてであり、また、カウンシルの指示を受けるといった条件付である。

この実態をみてみると、双方の組織上は、日本と同様に分離独立したスタイルをとりながら、運営上は、なお、カウンシルの指示を強く受けているという状況にある。

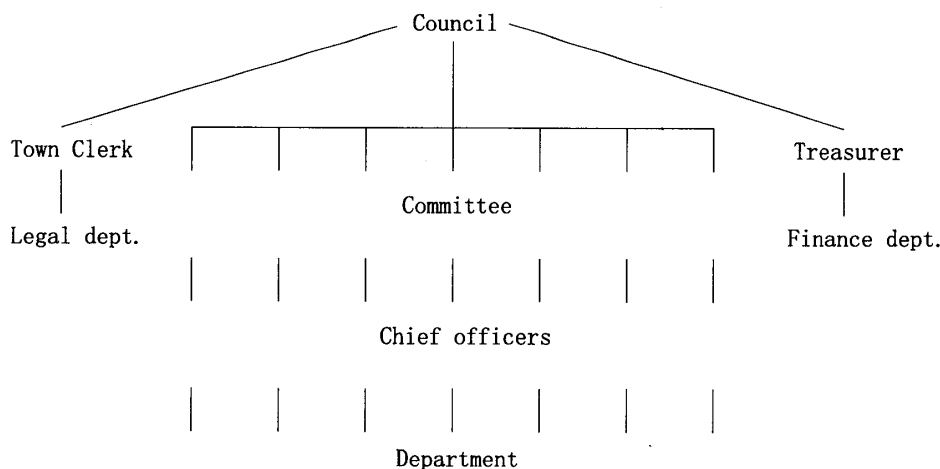
Full Council の長は、議長(Chairman)であり、コルチェスター・バラの場合、市長(Mayor)を兼務している。議長は、Full Council の長として議事進行を中心とした職務を遂行する。同時に、市長として850余の各種イベントに出席し、バラの代表者としてホスト役を務める。いわば、セレモニーの代表者としての仕事が、市長の職務である。

こうした議長は、一年の任期であり、全議員の中から輪番制で選出される。従って、議長はカウンシルの中でそれなりの実力のある、信任のある議員であり、実行力のある人物の一人とみなされている。カウンシルの中での実力者の一人といえる。

図4-2は、カウンシル(Council)と行政スタッフ(Administrative Staff)の構成である。

バラ・カウンシルの中で、この二つの組織は、対になって活動しているが、現在の運営では一体化したものではない。双方は独立した別個の組織であり、日本での議決機関に相当するのがカウンシルであり、執行機関に相当するのが行

図4-1 伝統的Councilの構成



(注) Chandler 『Local government today』 p. 137

政スタッフ組織である。

Full Council は、全議員により構成される会議体である。その長は議長であり、Committee にも、各議長が選出される。

政策の審議決定は委員会に委任される仕組みであり、各委員会の議長は政策形成に重要な役割を担う一人であり、有力者の一人といえる。

委員会の中では、政策・資源委員会が中枢の委員会として位置づけられ、その他の委員会の各議長が構成メンバーとなっている。そして、その議長は多数党のリーダーであり、Party Leader である。

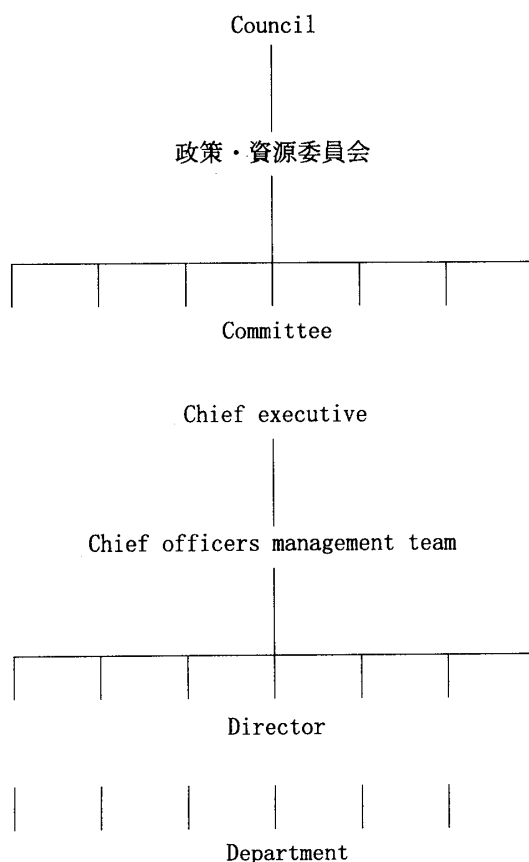
こうした委員会で審議・決定された政策は、行政スタッフ組織の長である Town Clerk & Chief Executive へと提出される。カウンスルで政策決定された政策は、その執行のために Chief Officer に委任されるが、行政サービスの

実施に当っては、行政スタッフの長である Chief Executive を経由して Chief Officer へと指示伝達される。

行政スタッフ組織は、その長として Town Clerk & Chief Executive が配置される。Chief Executive は公募制により議会で選任されるが、行政スタッフ組織の長として全権を掌握する。

Chief Executive の職能は、日本での市長とほぼ類似している。その違いは、日本の市長が直接選挙により選出される大統領制に対して、Chief Executive は、議会による任命制にある点である。現行の Chief Executive は、アメリカのシティ・マネージャー型に近いと考えられる。Chief Executive の下には、団体組織の本部であり、補佐組織である“Care”グループが集約されている。

図4-2 Council・Departmentの分離型の構成



(注) Chandler『前掲書』 p. 140

カウンシルから委ねられた政策原案は、この本部で審議検討され、行政執行すべく詳細な内容が協議され、それぞれの専門的部門へと配分される。各部門または各部長は、予算内で仕事をするように配慮するルールとなっている。

政策形成プロセスにおけるカウンシルまたは議員と行政スタッフとの関係は、原則として、カウンシルが政策を審議決定し、スタッフがそれを実行(執行)するという理念である。

政策形成の場合、日本と同様に、行政主導型が圧倒的に強いシステムとなっている。政策原案の90%は行政スタッフが作成し、カウンシルのミーティングに原案として提出される。議員提案は、ごくわずかでしかない。

ただし、政策内容の審議と決定はカウンシルの権能であり、カウンシルで反対にあえば、その政策は否決され執行できないこととなる。従って、たとえ強い行政主導で進められたとしても、政策がカウンシルで否定されたり、修正されれば、むしろ、議員主導型ともなり得るのである。応々にして、こうしたケースが多く、双方の協調型とも考えられる。

その際、カウンシルの委員会における審議プロセスに注目したい。イギリスのカウンシル(Full CouncilおよびCommittee)はフリートーキングであり、その審議過程では、提出原案に対して質疑のある議員は自由に意見を述べ、議長は意見がなくなるまで自由に討議を続け、「採決する」というスタイルである。

従って、この審議過程では、反対者も含めたあらゆる議員からの意見を十分に聞き、かつ、必要な意見を取り入れながら政策原案を審議していくというプロセスにある。もちろん、決定は多数決による「採決」であるが、このフリーディスカッションの審議プロセスは注目に値する。

日本の場合、官僚の書いた答弁内容を市長が読み上げる、あるいは、フリーの直接のディスカッションをしない審議方式などのために、十分な議論を尽くさないままに「採決」を行うケースがある。審議プロセスの重要性を再検討す

べきものと思われる。

政策の内容に関していえば、行政スタッフはプロフェッショナルであり、議員は素人でしかない。議員は政策を審議し、最終チェックをして、その方向性を提案する。従って、議員とスタッフは、パートナーシップの関係にある。

提案された政策について、議員が反対すれば(Conflict)、その政策は執行できないのであり、この点では、あくまでカウンシル主導型、議員主導型といえる。事実、そうした事例も、必ず生じてくる。Water Towerの開発について、スタッフ側は住宅用に開発するという原案であったが、議員側は保存を主張して反対し、保存案を前提にした住宅開発へと修正する方向で検討中である。

カウンシル又は議員と行政スタッフとの関係については、双方がどうあるか、あるべきか、単純に結論づけられる問題ではない。

コルチェスターの場合、双方のバランスがとれ、比較的好ましい状況にあるといわれている。その理由は、次の要因によると思われる。

- (1) カウンシルが多数与党の一角独裁型でないこと。3党が均衡しているため、議員も政党も比較的ルールに基づいて行動していること。
- (2) Chief Executive が長くベテランで、3党間のバランスやスタッフの管理が十分で、これらのバランスをとりながら行政運営を進めていること。
- (3) このため、Chief Executive の強力なリーダーシップの下に、カウンシルとスタッフとの均衡が保持され、双方のバランスある状況にあること。

こうしたカウンシルと行政スタッフとの均衡あるバランス関係は、議員またはカウンシル側が強力であると同時に、Chief Executive 以下のスタッフ側も強力であることを示唆していよう。要するに、Chief Executive 以下のスタッフ組織は、政策原案を作成するだけでなく、その他の諸問題にも強力なリーダーシップを発揮する程成長しつつあるのである。

このことは、コルチェスター・バラの行政スタッフの組織は、行政サービスを推進する機関として成長しつつあり、カウンスルの中でそれだけのパワーを保持した状況にあることを示している。

そもそも議員とスタッフとを比較した場合、議員はパートタイムであり、他に職をもつ素人である。これに対するスタッフは、フルタイムであり、プロフェッショナルであり、専門家としての責任ある仕事をやる集団である。この双方における素人性と専門性との格差は、自ずと組織間での格差となり、結果として、行政スタッフ組織が、一層強力な組織体として形成され、発展したものといえる。

イギリスの地方自治は、制度上、カウンスルおよび議員が中心となって政策決定し、執行するという理念を保有している。しかし、実態上は上にみたように、行政スタッフ組織が強力に成長しつつあり、多くの場合、行政主導型で展開している。実態が行政主導型にもかかわらず、制度がカウンスル主導型となっているために、双方の関係は常に矛盾を含んだ状況にあるものといえる。双方の力関係のあり様で、どちらが強力となり主導となっても不思議ではない状況にある。

コルチェスターの今日の状況は、カウンスルにおける3党の均衡とChief Executive以下のスタッフのリーダーシップにあって、双方のバランスが確保された状況にあるためである。

## 2. 議員

コルチェスター・バラ・カウンスルの議員(Councillor)は60名で、27の選挙区(Ward)より選出される。議員は、市民による直接の選挙により民主的に選出される。民主的な選挙により選出されることは、市民を代表して行政サービスの内容を決定する権限が与えられることでもある。

議員は、市民を代表して、(1)日常的サービス、(2)長期的、戦略的な諸問題、の双方についての審議決定を下す役割を負う。これらの諸問題は、

市民の将来について重要な意味をもつことになる。

議員の主な仕事は、次の6項目である<sup>2)</sup>。

- (1) 地方サービスの諸問題について、公共の意思を代表すること。
- (2) 委員会や小委員会に出席すること。そして、カウンスルで政党のために働くこと。
- (3) サービスを提供したり改善する最良の方法を決定すること。
- (4) 他の公共団体に対して、カウンスルの代表者として行動すること。
- (5) 問題や苦情をもつ地方市民の代表(弁)者として行動すること。
- (6) 市民の意見を聞く時間をもつこと。選挙民からの電話や直接の声を受けること。

60名の議員は、Wardといわれる選挙区から選出される。Wardは選挙用の行政区域で(図4-3)、コルチェスター・バラ内にある30のパリッシュ・カウンスル区域(図1-3)とは、わずかに異なっている。議員は各選挙区から人口に応じて1～3名選出される。

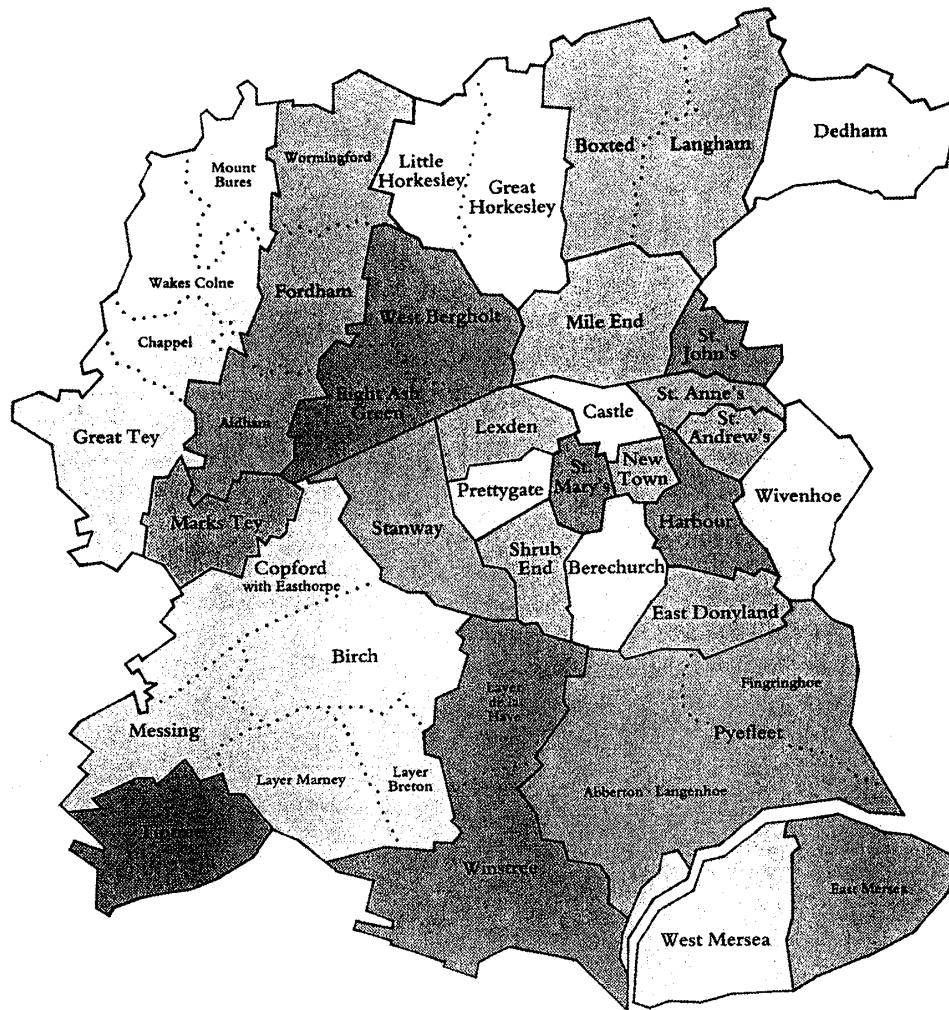
60名の議員の大半は素人であり、男性42名、女性18名、平均年齢50歳ぐらいで、20歳代が3名、最高75歳となっている。議員の任期は4年で、一期ぐらいの短い人が多い。20年以上の長期の議員は4名で、全体として比較的短い人が多く、議員の交代は早いといえる。

議員の任期は4年であるが、その3分の1(20名)は、通常、各年の5月に選出されるローテーションとなっている。市民は投票する際、議員が適切に市民を代表しているかどうか、常に確認(監視)しておく必要があるとされる。

議員の報酬はなく、時間手当、交通費などの手当だけが支給される。従って、収入としては、ごくわずかでしかない。手当の合計は、1,000ポンド余で、電話代、切手代、ガソリン代などで終わってしまうほどである。

議員に報酬がなく、素人政治を前提としている点については、日本の地方議員との大きな相違点の一つである。この素人政治は、市民のために奉仕するというボランティア精神が基本と

図4-3 COLCHESTERにおけるWARD, TOWN PARISH COUNCILの境界



(注) 『Colchester—Guide & Annual Report 93・94』 p. 37

なっている。しかし、報酬がないために、かつては、金持ちだけが議員になっていたこともある。現在でも、どちらかといえば、高齢者が多いのは、時間的、経済的余裕があるためといえよう。議員の職業は、専門家、自営業、主婦、退職したサラリーマンなどとなっている。

夕方6時からミーティングを開催するのは、他に職をもつ議員のための配慮であり、他方で、議員からは、「金のためにしているのではなく、コルチェスターが好きだから<sup>3)</sup>」という答えとなっている。

こうした議員の報酬については、有給化すべきであるという意見がある。すでに国では、「有給とすべきである」という答申を出している。素人政治の良さはあるものの、他方では、多くの企業からの肩書を得て、報酬以上の実質収入を得るといふ風潮もあるためである。国の報告書では、むしろ、こうしたことを是正するために、有給化し、収入の適正化を図ることにねらいがあるとのことである。いずれにしろ、将来、有給化の方向にいくものと考えられる<sup>4)</sup>。

96年5月に選挙が実施された。コルチェスタ



一の現在の党派別状況は、次表の通りである(表4-1)。

表4-1 党派別(議員数)

政 党	94.5	95.5	96.5
Liberal Democrats	33	34	33
Labour	9	12	15
Conservatives	17	13	11
T.R.A	1	1	1
合 計	60	60	60

(注) Borough of Colchester 『Courier』により作成

この選挙では、全国的には労働党が大幅に拡大したが、コルチェスターでは、なお、LD党が過半数を超え、多数党となっている。労働党の勝利は、国レベルだけでなく、多くの地方レベルでも同様の拡大が報じられている。コルチェスターでも、労働党が年々増加しているのは、表にみる通りである。しかし、コルチェスターは、依然としてLD党の多い地域であり、政治的にはどちらかといえば、伝統的・保守的な地域であるといつてよい。

市民には、議員リストが提供される。そのリストには、地区毎の議員の氏名・住所・電話番号・所属委員会・所属政党が記されている。市民には、何かあればすぐに議員に連絡して欲しいと書かれている。

このリストは、市民と議員とを直接結びつける役割を果たしている。市民と議員とのパイプの役割である。市民は、問題が起これば、関係する議員に直接電話をかけ、相談し、協議してその解決を図ることが可能である。議員はこれを受けて、カウンシルのスタッフと協議し、問題の解決を図るという仕組みである。

日本の場合、市民が議員に相談できるのは、支持する議員のみであり、その他の議員の住所・電話などの情報は知らされていない。そこで、問題解決のためには、自ずと市長部局の方に行くこととなる、という図式である。

イギリスの場合、議員の住所や電話番号をオ

ープンにすることにより、市民と議員とのパイプを日常的に、円滑にしておく仕組みとなっている。

しかし、議員にとっては、一日24時間体制で市民から電話がかけられるために、プライバシーがなくなり、家族の犠牲も大きいという側面もある。とくに、市民の中には、些細なことで長電話をしたり、マニアみたいに電話をかけたり、ということで議員個人の側からすると、家族とのプライバシーの区分が難しいとの側面も見受けられる。

### 3. カウンシルの構造

#### 3-1 カウンシルの構成

カウンシル(Council)は、全体議会(Full Council)と委員会(Committee・Board)と小委員会(Sub-Committee)からなる(図4-4)。

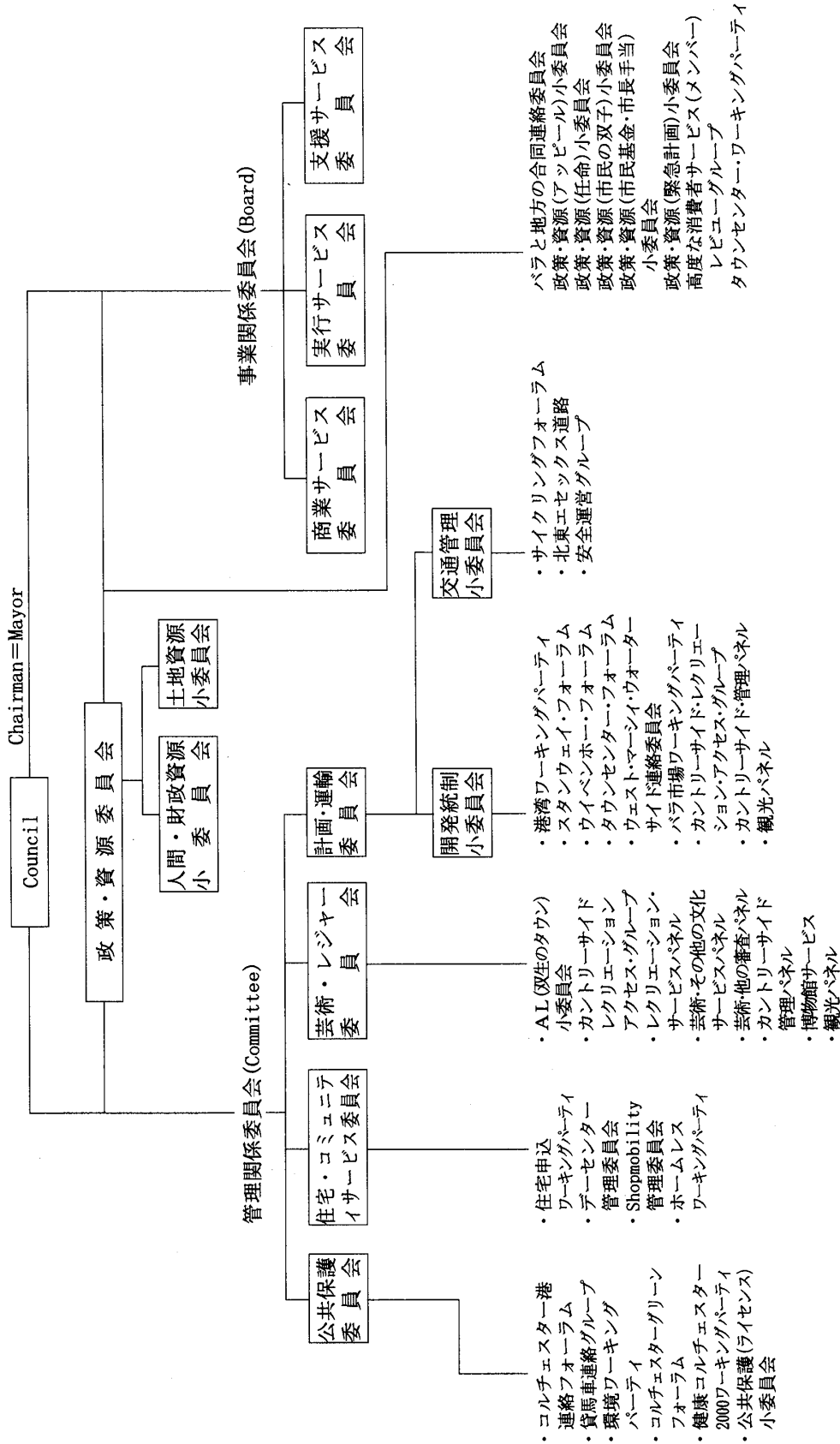
全体議会は、全議員が出席するもので、年に8回(95・96年の例)開催される。全体議会には、議長(Chairman)と副議長(Duty-Chairman)が選出され、議長は市長(Mayor)を兼務する。

委員会には、8委員会と4小委員会がある。政策・資源委員会は、毎年の予算を含む団体の戦略を設定するための全体の“親”委員会である。そのメンバーは、この委員会が重要であることから、8委員会の各議長(Chairman)からなる。

同委員会は、次の2小委員会を直轄する。人間・財政資源小委員会は、人事・研修問題、予算とカウンシル税を担当する。土地資源小委員会は、土地・建物に関するカウンシルの権利の監督を担当する。さらに、バラと地方との連絡、政策資源(アppeal, 任命, 双子対策, 市民基金, 緊急計画)の小委員会, 消費者サービスグループ, タウンセンターパーティなどを分担する。

Committeeには、公共保護委員会、住宅・コミュニティサービス委員会、芸術・レジャー委員会、計画・運輸委員会の4委員会がある。公共保護委員会は、コルチェスター港の連絡、貸馬車連絡、環境、グリーン、健康、公共保護などのフォーラム、グループ、パーティを分担す

図4-4 Councilの構成 (95・96年)



(注) 『Borough of Colchester』 4-5p.

る。住宅・コミュニティサービス委員会は、住宅申込、デーセンター、ショップモビリティ、ホームレスを分担する。芸術・レジャー委員会は、芸術、レクリエーション、カントリーサイド、博物館、観光などの問題を分担する。計画・運輸委員会は、開発統制、交通管理の2小委員会を直轄する。両小委員会は共同で、港湾、タウンセンター、バラ市場、カントリーサイド、観光などの問題を分担する。交通管理小委員会は、サイクリング、北東エセックス道路を分担する。

Boardには、商業サービス、実行サービス、支援サービスの3委員会があり、これらの委員会は、事業を実行したり、要請された水準に達成させることを目的とするものである。

商業サービス委員会は、レジャーワールド、カOUNシル住宅、港湾、駐車場、消費者、ストアーなどの問題を分担する。実行サービス委員会は、計画と建物統制の管理、博物館、観光、カントリー公園、環境と健康、コミュニティサービスなどを分担する。支援サービス委員会は、建物、ハイウェー、エンジニアリング、土地、財産、財政などの内部管理問題を分担する。

委員会には、CommitteeとBoardがあるが、その違いは明確ではない。Committeeでは、政策を審議・決定し、Boardでは、決定された政策を執行する手続などの具体的な内容の協議が行われるといわれる。

こうしたカOUNシルは、委員会、小委員会での議員による政策の審議・決定が中心となって展開される。12の委員会、小委員会は、6週に1回のペースでmeetingが開催され、所属する議員が出席して政策の審議・決定が行われる。各議員は、それぞれ2～3の委員会・小委員会に所属する。

カOUNシルにおける政策の審議・決定は、原則として全体議会から委員会に委任されている。例外として、各委員会で2人以上の議員の反対により否決された政策原案だけは、全体議会で再審議される。

すべての重要な政策は、政策・資源委員会に

かけられ、審議・決定される。従って、同委員会は、各委員会の議長が構成メンバーであり、そのメンバーは、多数党(Leader Party)であるLD党(Liberal Democracy Party)のリーダーである。多数党のリーダーは、Party Leaderといわれ、カOUNシルの中での政治的側面からの最有力者といわれる。

カOUNシルには、Full Councilの議長がおり、コルチェスターでは、全議員からの互選により議長が選出される。議長の任期は1年で、市長職を兼務する。議長の主なる職務は、全体会議での議事進行であるが、全議員から選出されることもあり、リーダーに次ぐ有力議員といわれる。

政策の実質的な審議・決定が委員会に任ねられていることから、各委員会の議長も、所属する委員会関係の政策決定に関しては、重要な役割を果たすこととなる。コルチェスターの場合、すべての委員会の議長は、多数党であるLD党メンバーであり、リーダーは、こうした議長をコントロールすることにもなる。なお、多数党が委員会の議長を独占することは、どの他市でも同様の傾向である。

多数党は、委員会の議長を配置することによって自らの政策を実現しているのである。もちろん、審議の過程で反対党を含めた多くの意見を聞き、よいアイデアをとり入れながら政策の策定をしていくことは言うまでもない。少数与党の場合、委員会の議長は分散した政党になることもあり得る。

カOUNシルの運営上、その実権は誰がもつかという問題であるが、制度上では、カOUNシルの議長が実権をもってよいはずである。しかし、議長は、議事進行を行ったり、市長との兼職をしていることから、表面上の顔という要因が強く、実質上は難しい。

次に、多数党のリーダーであるが、各委員会の議長との連携を含めて、リーダーの実権が強大なことは言うまでもない。従って、カOUNシル内での政治的側面からは、このリーダーが実権をもっているものといえる。

しかし、コルチェスターの場合、Town Clerk & Chief Executive の存在を忘れてはならない。タウン・クラークは、13年余の経験をもち、しかも、スタッフの長として多くの専門的スタッフをかかえ、政策、人脈、情報にも通じており、実権は、このクラークにあるといわれる。

通常、イギリスのカウンシルでは、リーダーに実権があるといわれているが、リーダーはあくまでもカウンシル内での政治的側面が中心のパワーであり、しかも、党を中心とした実権である。タウン・クラークの場合、制度上は、裏方となっているが、常勤職員であり、プロフェッショナルであり、その実力から多くの支持を

得て、カウンシルでの第一人者になったものといえる。従って、あえていうならば、カウンシル内では、①タウン・クラーク、②リーダー、③議長、の順位で実権があるといわれている。

### 3-2 カウンシルの開催

コルチェスターのカウンシルは多忙である。年間104日、数百時間をかけて開催される。次表(表4-2、4-3)は、95年5月から96年4月までの開催状況である。この年度は、6週13回のサイクルで行われ、12の委員会、小委員会と最終日の全体議会(Full Council)が、平均8回開催されている。

表4-2 Council の開催日(95・96年)

1. 95年5月22, 23, 24, 25, 30, 31, 6月1, 5, 6, 21, 22
2. 6月27, 28, 29, 7月3, 4, 5, 10, 11, 12, 13, 17, 18
3. 7月27, 8月2, 3, 10, 14, 15, 16, 21, 22, 23, 24, 29, 30
4. 9月13, 14, 19, 20, 21, 25, 26, 27, 10月2, 3, 4, 5, 9, 10
5. 10月19, 25, 26, 11月6, 7, 8, 12, 13, 14, 15, 16, 20, 21
6. 12月6, 7, 12, 13, 14, 18, 19, 20, 21, 96年1月2, 3, 4, 8, 9
7. 1月24, 25, 2月1, 5, 6, 7, 12, 13, 14, 15, 19, 20, 3月6, 7
8. 3月12, 13, 14, 18, 19, 20, 25, 26, 27, 28, 4月1, 2, 17, 18

(注) 『Borough of Colchester—Year book』(1995・96)p.11~12より作成

表4-3 Committee メンバー数と開催回数(95・96年)

委員会名	議長	副議長	メンバー	準メンバー	会議回数
政策・資源委員会	1	1	12	8	8
芸術・レジャー委員会	1	1	12	8	8
住宅・コミュニティサービス委員会	1	1	12	8	8
計画・運輸委員会	1	1	12	7	8
公共保護委員会	1	1	12	8	8
人間・財政資源小委員会	1	1	10	5	8
土地資源小委員会	1	1	10	5	8
開発統制小委員会	1	1	11	5	16
交通管理小委員会	1	1	11	5	8
商業サービス委員会	1	1	7	3	4
実行サービス委員会	1	1	7	3	4
支援サービス委員会	1	1	7	3	8
全体議会(Full Council)	1	1	58	—	8
計	13	13	—	—	104

(注) 『Borough of Colchester—Year Book』(1995・96)p.7~12より作成

ミーティングは、原則として夕方6時から開催され、10時までとされる。その日の議論が終らない場合、次回に引き継ぐもので、10時には閉会とする。通常、9時頃には終了するケースが多いようである。

ミーティングは、原則として市民に公開で、申し込めば自由に入室でき、傍聴できる。傍聴者はそう多くないが、市民の利害に関わる議題などの場合、市民個人または関係グループによる傍聴が行われる。傍聴者は発言権はない。しかし、議員との話し合いで、自分の意見を議員に代弁してもらうことは可能で、会議中、室の隅で議員と傍聴市民とが小声で打ち合わせする光景は、しばしば見られる。

ミーティングは、フリートークの形で、提案議員に対する様々な意見が自由に展開される。通常、議長は、議員からの意見が出尽くすまで議論を続け、終わった段階で採決をとる。議論は、会議中、終始さまざまな議員からの熱心な意見が展開される。

### 3-3 全体議会、委員会の審議

#### (1) 全体議会(Full Council)

本会議の審議は、次のようなものである<sup>5)</sup>。

開会の前に、まず、次の儀式が行われる。The Town Sergent を先頭に、Chairman(=市長)、副議長、タウン・クラークが続き、壇上に座る。サージェントは、大きな Mace という枝をもち、うやうやしく正面の机の上に置く。開会中、真中の大きな机の上におかれ、閉会後もこのメースを先頭に退席する。

次いで、司会を通じて議長の宣言文が朗読される。これは、議員が、①金の利害がない、②その他の利害がない、ことを宣言するもので、政策の審議に当り、議員は自分の利害のある場合には退出する義務があるとされる。これは、議員が特定の利害に関わりがないことを保証するための確認である。この違反は、罰金又は刑務所に入れられることもあるというモラルの確認である。こうした一連の儀式を終えたのち、はじめて議長は議事を進行させる。

議事は、提案議員からの政策提案から始められる。これに対して、意見のある議員は、自由に挙手して意見を述べる。審議は議員からの意見がなくなるまで続行され、意見のあるすべての議員の意見を聞いた上で、議長は採決に入る。さまざまな議員による白熱した論争が行われ、これこそ議会ではないかと感心させられる。

議長は、挙手による採決、議員の名を一人ずつ読みあげて採決、などにより採決を行い、政策が決定される。議長の隣りに座るタウン・クラークは、採決の際に、票数を数え、議長の補佐を務める。

タウン・クラークは、その他、議長から声をかけられ、それに対するアドバイスをするという光景もしばしば見受けられる。タウン・クラークによる議長への補佐である。なお、担当部長をはじめとする職員も入室しているが、議長等の指示のない限り、発言権は与えられていない。

議場は、1階壇上に議長・副議長・タウンクラーク・その補佐の5名が座り、それを囲むように半円形の座が並び、各議員が座る。2階には傍聴席があり、30名余の座席が用意されている。傍聴者は、そう多くなく、5～6名余が平均のようである。

#### (2) 委員会(Committee)

委員会での審議状況は、次の通りである。

全体議会のような儀式はなく、議長は開会と同時に審議を開始する。スタッフは、政策原案を説明する。開発委員会などの場合、スライドを使用しての解説も行われる。比較的厚い、当日の配布資料も用意される。

議員は、提案された原案に対して、いろいろな角度から挙手して自由に発言し、これに対して、提案議員または議長が答弁するというスタイルである。原案を説明したスタッフは、指名のない限り、直接に答弁することはない。

審議は、あくまでも議員と議員または議長との間での discussion により進められる。議員は、審議中、隣りや前後の議員とコソコソと意見を交換し、必要に応じて挙手して発言すると

いうものである。場合によっては、傍聴席の一般市民と相談し、その意見を代弁する形で発言する光景すら見受けられる。

議長は、自分の意見を発言しながら問題を整理し、議事の運営を進めていくというスタイルである。議長は、議員からの質問がなくなり、意見が出尽くしたという状況を確認してから採決に入る。議長は、議員の挙手によって採決する。その際、議長自ら数えたり、副議長が数えたりという方式である。

なお、問題が多く議員の意見が続出した場合、採決せずに再審議する事例も見受けられる。2名以上の議員からの反対がある場合、全体議会で再提案されるというルールでもある。

反対議員からのヤジなどは一切なく、審議は、熱心な白熱した議論が展開される。議会の開会前には、入口で反対者と思われる人々がプラカードを持ち、支持を訴えるという光景もある。

傍聴席は、20名余用意されているが、開発問題などの住民生活に直結する問題は別にして、その他の場合、傍聴者は数名しかいないことが多い。住民の政治ばなれは、いづこも同様のこのようである。審議は6時から10時までで、8時から15分余のティータイムがある。10時には審議を終え、次回への継続にするというルールである。

ミーティングの審議は、時間をかけて、自由に、徹底した discussion がなされるという仕組みであり、極めて健全である。正に、議会の審議として、市民の代表としての議員の職務を果たしているとの印象である。日本の議会における形式的な審議、一方交通的な審議形式は、この意味からも、再検討しなければならないことの一つであろう。

### 3-4 議長(Chairman)、市長(Mayor)

議長は市長職を兼務する。議長の任期は1年で、全議員の中から互選で選出される。多くの場合、輪番制によるので年長議員あるいは古参議員のなる事例が多い。議長の名称は、一般的には Chairman である。しかし、女性の議長が

出現して以来、Chairperson あるいは Chair と呼ばれている。

Full Council での議長は、全議員の出席する議会での議事進行、議論の問題整理ととりまとめが主なる職務である。従って、名誉職に近いといわれているが、カウンシルでの政策の審議決定にインパクトを与えるだけの実権は与えられているとみてよい。但し、政策の審議決定は、委員会に委任されており、決定権の多くは、原則として各委員会の議長に委ねられていることはいうまでもない。

なお、議長になると、その中立性を確保するために党を離れ、無党派となることを原則とする。しかも、採決に当り、賛否同数の場合、議長は現状維持の政策に賛成するという習慣になっている。かつて、労働党が議長の時、この習慣を破り議長が政治力を使ったために、市民から批判のデモが起こった事例すらある<sup>6)</sup>。しかし、これはあくまでもコルチェスターの事例であり、他市では、議長に政治力を与え、多数党が議長になるというシステムをとっているところもある。

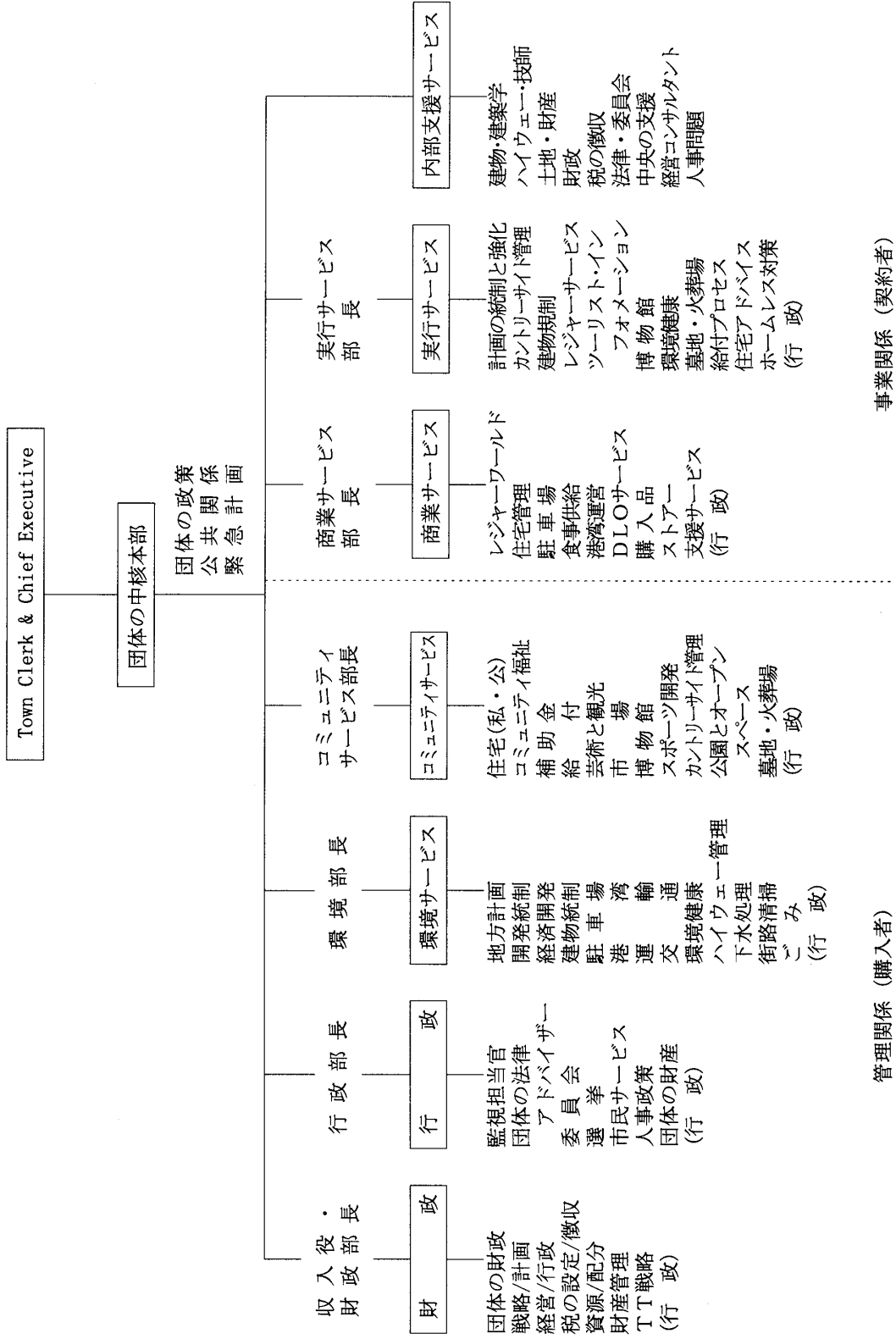
議長が兼務する市長(Mayor)職は、歴史的な産物として現存する職名である。

コルチェスターは、1189年に Richard I 世により Charter(憲章)が与えられ、バラとしての特権が与えられた。市長選出の権能は、1635年の Charles I 世によるチャーターで認可されたものである。これは、従来の2人の執行史員に代えて市長職の選出が認められたものである<sup>7)</sup>。従って、バラ以外のディストリクトには、通常、市長職は不在である。Mayor や Chairman の名称については、表4-4を参照いただきたい。

以来、今日までの市長は毎年選出されており、1995年5月からの Tony Webb 議員は、340代目の市長となる。95年5月までの Mrs. Mary Fairkeed は、歴代9人目の Lady 市長である。

市長の職責は、どちらかといえば、(1)対外的権能としての代表性、(2)イベントのホスト、などのような公式的、セレモニアルなもので、

図4-5 スタッフの構成(96年)



管理関係 (購入者)

事業関係 (契約者)

(注) Colchester Borough Council

「First Citizen」といわれる名誉職である。

市長は、850以上の権能について、コルチェスター・バラ・カウンシルを代表する。Town Hallでの執務中の市長は、首から市長としての勲章を下げ、赤いマントの礼服を着用している。市長は、Oyster Fest, Oyster Fisheryの開始、毎年のMayor Making, St George's Day, Remember Day, Municipal サービスなどの伝統的なイベントのホスト役となる。加えて、集会などのセレモニーでのあいさつ、婦人会の訪問、Town Hall ツアーへのあいさつなど、外部からTown Hallに訪れるグループへの対応、あいさつなど多様である。毎日、2～3件のこうしたイベントへの対応だけでも、多忙を極める。

市長職は、実権的な権能がないとはいえ、年に850以上の権能をこなすだけでも激務といえる。なお、実権がないとはいえ、金の余りかからない政策であれば、実行可能であることはいうまでもない。

### 3-5 リーダー

リーダー(Party Leader)は、多数政党のトップであり、カウンシルの実力者である。各委員会の議長との連携から、自らの政党の政策の実現に向けて政治力を発揮するのであり、政治力という点では、カウンシル内での第一人者である。しかし、その政治力は、あくまで政党を中心としたものであり、政党の代表、多数党の代表としてリーダーがいるのである。カウンシルの全体から考えると、そこが限界でもある。

### 3-6 Mayor と Chief Executive の呼称

表4-4は、エセックス・カウンティ内の14のバラ・ディストリクト・カウンシルにおけるChairmanやChief Executiveの名称を示したものである。

議長(Chairman)には、Chairman, Mayor, Chairpersonと3種類の呼び方がある。Mayorは、バラ・カウンシルにおける議長の呼称でもある。6つのバラ・カウンシルでは、Mayorを現在でも採用している。Chairmanは一般的に

いう議長である。これに対して、Chairpersonは、議長には、男性も女性もあり得るということで、Chairpersonという呼称が生まれたものである。

Chief Executiveには、Chief Executive & Town Clerk, Town Clerk & Chief Executive, Town Clerk, General Managerなどの呼称がある。

14のバラ・ディストリクト・カウンシルだけでも、これだけの種類があることは、全国の団体では、それぞれの呼び方でいわれているものと推測される。これは、イギリスの地方団体の歴史性と多様性の結果といえる。

## 4. スタッフの構造

### 4-1 スタッフの構成

行政スタッフ組織の構成は、Town Clerk・Chief Executiveを長として7部門からなっている(図4-5)。タウン・クラークの補佐機関には、中央本部としてのコア・グループがある。この中央本部は、約10名からなる小グループで、団体の政策、公共関係、緊急の計画などの中核的な仕事を担当する。

この中央本部は、7部門を統括する。7部門には、それぞれ、収入役兼財政部長、行政部長、環境サービス部長、コミュニティサービス部長、商業サービス部長、実行サービス部長の6 Directorが配置されている。内部支援サービス部長は空席で、財政部長兼務となっている。

この7部門は、管理関係グループ(Client)と事業関係グループ(Provider)に区分される。その機能は、政策決定を中心とするClientグループと事業を実施するProviderグループである。この区分は、一般職員では、ホワイトカラーとブルーカラーの区分にもなる。

管理関係部門は、次の仕事を担当している。財政部門は、団体の財政戦略、経営、行政、税の設定・徴収、資源配分、財産管理、内部決算などを担当する。行政部門は、監視担当、法律上のアドバイザー、委員会、選挙、市民サービス、人事政策などを担当する。



表4-4 Mayor・Chief Executiveの呼称

District	Basildon	Braintree	Brentwood*	Castle Point*	Chelmsford*	Colchester*	Epping Forest
人口(千人)	161	123	71	85	155	149	118
議長	Chairman	Chairman	Mayor	Mayor	Mayor	Mayor	Chairman
Chief Executive 他	Chief Executive	Chief Executive	Chief Executive & Town Clerk	Chief Executive & Clerk	Chief Executive	Town Clerk & Chief Executive	Chief Executive
Director	2	3	3	6	6	6	2
Head	1	4	9	1	1	(兼)	2
他	—	—	—	—	—	—	—
Monitoring	1	1	1	1	1	1	1
District	Harlow	Maldon	Rochford	Southend・ ・on-Sea*	Tendring	Thurrock*	Uttlesford
人口(千人)	75	53	75	169	130	127	66
議長	Chairperson	Chairperson	Chairperson	Mayor	Chairman	Mayor	Chairman
Chief Executive 他	General Manager	Chief Executive	Chief Executive	Town Clerk	Chief Executive	Chief Executive	Chief Executive
Director	4	3	2	6	4	4	3
Head	1	1	2	1	1	1	4
他	—	—	2	3	2	2	—
Monitoring	1	1	1	1	1	1	1

(注) 1. 『Essex County Council—Yearbook 95・96』より作成

2. \*はBorough District

環境サービス部門は、ローカル計画、開発統制、経済開発、建物統制、駐車場、港湾、交通、環境と健康、ハイウェイの維持、下水処理、街路清掃、ごみなどを担当する。コミュニティサービス部門は、住宅(公共と民間)、コミュニティ福祉、補助金、給付、芸術と観光、市場、博物館、スポーツ開発、カントリー管理、公園とオープンスペース、墓地・火葬場などを担当する。

事業関係部門は、レジャーワールド、住宅管理、駐車場、食事供給、港湾運営、DLO サービス、購入品、ストアーなどの実施を担当する。実行サービス部門は、計画の統制、カントリーサイドの管理、建物規制、レジャーサービス、観光インフォメーション、博物館、環境、健康、墓地・火葬場、住宅アドバイス、ホームレス対策などの実施を担当する。内部支援サービス部門は、建物建築学、ハイウェイと土木工事、土地・財産、財政、税の徴収、法律、委員会、中央支援、経営コンサルタント、人事問題などを担当する。

これらの7部門は、タウン・クラークの指揮・統括の下に、議員への助言、支援をはじめ、行政サービスの執行を主に担当している。この特色の一つは、組織を管理関係と事業関係に区分して仕事を分担するという方式であるが、のちに詳細したい。

#### 4-2 タウン・クラーク&チーフ・イグゼクティブ

コルチェスターのスタッフには、スタッフ組織の長としてタウン・クラーク&チーフ・イグゼクティブ(Town Clerk & Chief Executive)がいる。その名称については、表4-4を参照いただきたい。タウン・クラークは、13年前に公募制により選任された。応募6名の中から、カウンシルの特別委員会が協議選定され任命されたものである。フルタイムの職員で、年収8万ポンドといわれ、カウンシル・スタッフの全体を指揮監督する。

クラークには、①選挙なし、②任期なし、③本人の辞任以外に止めさせられない、④議会の第三者機関の協議で辞任もあり得る、⑤安全弁がある、などの条件で身分保障されている。その職務は、別紙の通りである(表4-5)。

タウン・クラークには、カウンシルで審議決定された政策について、その執行が委任され提供される。その政策を執行するために、担当部門へと配分し、指揮監督することがその職務となる。

こうしたタウン・クラークは、行政スタッフの長として全権を掌握することになり、強力な実行者ともなる。タウン・クラークは、フルタイムであり、13年の長い経験をもち、多くのスタッフによる支援を得て、カウンシル内外の情報を掌握する。結果として、制度上は、カウンシルを支援する裏方として位置づけられているものの、実質上は、カウンシルの内外における第一人者とまでいわれる実行力を備えることとなる。なお、タウン・クラークがこうした実行力をもち、強力なパワーをもって活動しているのは、周辺のどの自治体でも同様であり、近年における共通の特色といえる。

タウン・クラークの職務上での連絡範囲は、議員、カウンシルの全スタッフ、地元選出の下院議員、上級の政府役人、外部の関係団体、地方団体の連合体、地方のオンブズマン、地区の監査役、地域や商業コミュニティの代表者、一般市民など多方面にわたる。

現在のタウン・クラークについては、カウンシルの任命により選任されており、アメリカのCity manager型に近いと思われるが、この改革も議論されている。それは、「市民の選挙により選出する」という公選市長型案であり、市民に選出される代表者としての改革である<sup>8)</sup>。すでに、国レベルではこの方向での提案がなされており、将来、そうした方向へと展開される可能性が高い。

タウン・クラークが公選され、行政スタッフの長につくとすれば、日本の市長型と同様のスタイルとなる。従って、イギリスのシティ・マ

表4-5 タウン・クラークの職務

(仕事の目的) カウンシルのサービスに関する全体的な管理や方針
(主要な責任)
1) 政策や法律上、財政上の制限の範囲内で供給され要求されたサービスや特別の基準を保証するために、Council のサービスや職員に関する全体の管理や行動を指揮すること。
2) 全体としての Council の業績の適切な査定を促進したり、個々の職員の業績査定に貢献するために、Council のサービスのすべてにわたる明確な基準や目標の開発を指揮すること。
3) 特別な業績の基準が達成されたり、サービスが能率的・効果的な方法で提供されることを保証するために、Council の組織的な構造やサービスを伝達する方法についての全体の効果を見直したり監視すること。
4) 議員に対する助言や支援に関する相互依存したチームとして共に働くことや、効果的な連絡や相互支援が Council サービスのすべてにわたり維持されることを保証するために、Council の団体管理チームを先導し指導すること。
5) Council サービスの効果的・能率的な伝達のコストを保証するために、Council サービスの戦略的管理や団体の政策形成に関して議員を啓発し助言すること。
6) 職員、外部の機関、顧客が Council の政策やサービスについて適切に伝えられることを保証するために、Council の文化、内外のコミュニケーション、相関性などを啓発し指揮すること。
7) 健全な雇用関係が維持され、潜在的な職員の資源が十分に利用されることを保証するために、団体の人事政策や実践に関する全体の開発を指揮すること。
8) Council が高度に積極的なプロフィールを維持することを保証するために、適切な機関やメディアとの正常な外形的関係を開発し維持すること。

(注) Colchester Borough Council 「Job Account ability statement」の訳出

ネージャー型のタウン・クラークと日本の市長とが、現在の大きな相違点となる。

#### 4-3 クライアント・グループとプロバイダー・グループ

この組織でもう一つの注目点は、Client グループと Provider グループとの区分である。この組織経営の方式は、イギリスにおいても極めて先進的な試みといわれ、なお、試行の段階と思われる。コルチェスターでは、93年5月から導入したもので、国の National Health Service の組織をモデルとしたものである。

その目的は、(1)戦略的、(2)コアグループが中心となり、政策の全責任を負う、(3)クライアント・グループとプロバイダー・グループとに区分して仕事を分担する、ことにある<sup>9)</sup>。

クライアント・グループは、コアグループと協力して政策を協議し実行する。その際、(1)政策の優先順位づけをする、(2)サービスの方法について、民間の協力を得るか否かを検討し判

断する、などを行っている。さらに、必要とされるサービスを専門化したり、長期的政策問題やカウンシルの戦略についての情報を提供したりする。

プロバイダー・グループは、事業の実施を目的とするグループで、関係団体(民間)と協力して仕事を実行する(契約する)。さらに、サービスを提供したり、日常のサービス活動についての情報を提供したりする。

たとえば、プロバイダー・グループである商業サービス部門や実行サービス部門では、民間と競争してコストが安い場合のみ直営サービスで行い、高い場合、民間企業に民間委託として契約する。とくに、商業サービス部門では、その大半を民間委託し、民間企業のサービスをチェックするのが仕事ともなる。実行サービス部門では、一部を民間委託し、他は直営サービスを実施している。内部支援サービス部門でも、現在、この方式を検討中である。

こうした民間委託の導入は、行政サービスを

コスト面からの効率性で判断しようというもので、官民の経営努力を高める効果を目的としたものである。

こうした新しい構造の導入は、行政サービスの向上や効率的な行政運営を達成するためのもので、(1)行政サービスにどのくらいのコストがかかるか、(2)高度な水準のサービスをいかに確保するか、ということを意図したものである。

なお、こうした新しい方式の導入は、イギリスでも先進的な事例であり<sup>10)</sup>、コルチェスター・バラ・カウンシルが、積極的に行政改革を進めている地方団体の一つである。

#### 4-4 スタッフの管理

イギリスの行政スタッフ(Administrative Staff)をめぐる制度の仕組みは、日本と大きく異なっている状況にある。

行政サービスは、単位事務に分解され、その事務に応じてスタッフが配置される。スタッフは、一つの仕事をを行うために採用されるのであり、その仕事を専門的に行うプロフェッショナルである。従って、採用されたスタッフは、その仕事の専門家であり、仕事を変えることは、あり得ない。「a single hatting」<sup>11)</sup>といわれ、人事異動はないのである。

日本の場合、マンネリ化、組織の停滞、事務処理の効率化などの理由から、4～5年に一度の割での定期的な人事異動を実施しているが、イギリスでは、専門化が先行している。専門化を前提とした場合、よほどの理由のない限り、人事異動は考えられない。

地方公務員の採用に当っては、広く公募制が導入されている。原則として、全職員が公募制により採用されるのであり、仕事に欠員ができると、公募され、採用されるというシステムである。その際、職種、仕事内容、年齢、年俸などの条件により、専門紙などに公募広告が出されるところもある。地方公務員向けの専門紙には、たくさんのこうした公募広告が載せられている。

現在のタウン・クラークも公募制により任命

されたのであり、部長、課長などの管理職も公募の対象とされる。日本では、課長・部長などの管理職は、年功序列で経験年数に応じて昇進昇格されるが、イギリスでは、これらの人々さえも、公募の対象とされる。従って、職員はプロ野球の選手並みに、より給料の高い自治体に移動する(わたり歩く)ということすら行われている。

効率化を前提とした行政改革が実施されているのである。しかし、イギリスでも1930年代まで、年功序列による終身雇用制が一般的な仕組みであった<sup>12)</sup>。その後、徐々に変革が行われ、80年代のサッチャー政権以降、急激なる改革が実行された。1970年代頃より、フラットにしてスリムな組織への改革が行われ、経済性、能率性、効率性を前提とした競争原理による能力主義が導入された。

最近のコルチェスターでは、スタッフ構造を5段階から3段階へのフラット型へと移行させ、効率化を図っている。現在では、部長職(Director)、課長職(Head of ~)、一般職員(Officer)の3段階が原則的な名称である。

なお、カウンシル・スタッフの仕事の全体的評価としては、民間コンサルタントによるモニタリングを実施している。すでに3回実施され、支持評価が52%から76%へと上昇しており、スタッフにおける総合的マネジメントが評価されているものと認識されている。

#### 引用文献

(第1章)

- 1) Colchester Borough Council 『Colchester Counts』 p. 17
- 2) 前掲 『Colchester Counts』 p. 15

(第2章)

- 1) Colchester Borough Council 『Colchester』 p. 1
- 2) 前掲 『Colchester』 p. 7
- 3) Colchester Borough Association 『Colchester 800』 p. 4
- 4) Benham 『Colchester』 p. 159～163より翻訳・作成

(第3章)

- 1) 第3章は、拙稿「イギリスの生活と文化」(『社会学部論叢』1997. 3)の一部を加筆修正したものである。
- 2) Martin 『Colchester official guide』 p. 36
- 3) Joy Richardson 『Looking at Local Records』 p. 13
- 4) 『The Town Hall Colchester』 p. 3
- 5) Colchester Borough Council 『Colchester 800』 p. 33
- 6) Barbara Buther 『Walking the Walls』 p. 3
- 7) Martin 『Colchester—official guide』 p. 65
- 8) 『Guide to Colchester's Dutch Quarter』
- 9) Colchester Borough Council 『Colchester』 p. 7
- 10) Colchester Borough Council 『Colchester—Planning Handbook 95』 p. 34~37
- 11) East Anglian 「Parking in Colchester」
- 12) Colchester Borough Council 「Public Toilets Information」
- 13) Essex County Council 『Essex Libraries Request Service』
- 14) Colchester Borough Council 「Colchester Shop-mobility」
- 15) 前掲 『Walking the Walls』 p. 16-17および前掲 『Colchester』 p. 20-21参照
- 16) Colchester Borough Council 『High Woods Country Park』
- 17) Colchester Borough Council 『Lexden Springs』
- 18) Fred Matthews 『Essex—Walk for motorists』

(第4章)

- 1) 山下 『比較地方自治』 40頁
- 2) 『Colchester—Guide & Annual Report 93・94』 p. 35
- 3) Councillor Bob Russell 氏の発言。
- 4) Tony Byrne 『Local Government in Britain』 p. 294-295
- 5) Full council と Committee の内容は、筆者が傍聴したものである。
- 6) Bob Russell 氏のヒアリング議事録
- 7) 1635年 Charter 参照
- 8) Chandler 『Local government today』 p. 142
- 9) 『Borough of Colchester—Year Book』 (95・96), p. 16
- 10) 前掲 Chandler, p. 142-143
- 11) ヒアリングによる Colchester 広報官 Liz 氏の発言
- 12) キャスリーン・マクロン「クロスカルチャー-処世術」『英国ニュースダイジェスト—97. 2. 27号』

参考文献

(第1章)

1. Colchester Borough Council 『Colchester Counts』 1996. 3
2. 同 上 1995. 3
3. 同 上 1992. 3

(第2章)

1. Colchester Borough Council 『Colchester 800』
2. Martin 『Colchester—official guide』
3. Colchester Borough Council 『Colchester』
4. Benham 『Colchester』

(第3章)

1. Martin 『Colchester—Official guide』
2. Joy Richardson 『Looking at local records』
3. 『Town Hall Colchester』
4. Colchester Borough Council 『Colchester 800』
5. Butler 『Walking the Walls』
6. Colchester Borough Council 『High Woods Country Park』
7. 同 上 『Lexden Springs』
8. Fred Matthews 『Essex—Walk for motorists』
9. Colchester Borough Council 「Colchester Shop-mobility」

(第4章)

1. Colchester Borough Council 『Borough of Colchester』 Year Book 1995/96
2. 同 上 「Help is get it right!—Who to Contact」
3. 同 上 「Help is get is right!—Compliment or Complaint?」
4. 同 上 『Colchester—Guide & Annual Report 1993・94』
5. 同 上 『Standing Orders and Financial Regulation』
6. Colchester Borough Council Review of the Year 1994/95 『Courier』
7. Colchester Borough Council Town Clerk & Chief Executive John Copley 氏のヒアリング記録
8. Colchester Borough Councillor Bob Russell 氏のヒアリング記録
9. Colchester Borough Council Officer Liz Curry 氏のヒアリング記録
10. Tony Byrne 『Local government in Britain』
11. J.A. Chandler 『Local government today』